
月刊！ぽぽ介的少女漫画パラダイス

風見ぽぽ介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月刊！ぽぽ介的少女漫画パラダイス

【Nコード】

N3840Y

【作者名】

風見ぽぽ介

【あらすじ】

作者のシュミ全開！この作品では僕・風見ぽぽ介と3人の漫画プレゼンターである南楓・木之本桜・チャチャと共に、さまざまな少女漫画作品（主にちやお・なかよし・りぼん）を紹介していくというラジオ番組の様な小説でございます！

最近連載中のものから10年以上も前の作品まで、幅広く取り扱っています。毎月10日更新で、第2回は2012年1月10日の予定です！

メインキャラ4人で、楽しくいつてみよー！

注) 台本書きです。苦手な方は戻るボタンで御戻り下さいませ。

内容説明とご注意

初めましての方も、そうでない方もこんにちは！

風見ぽぽ介でございます。

と言いついで早速、この作品の概要を説明します。

今回の小説では、にじファンではかなり稀なジャンル「少女漫画」に焦点を当てていきます！

内容としましては、僕・風見ぽぽ介と漫画プレゼンター3人（南楓・木之本桜・チャチャ）が後述の構成テーマに沿って毎月少女漫画作品合計3作をトークを交えてピックアップしていくというものです。そしてピックアップされた作品の登場キャラはゲストキャラとして参加することになります。

基本的には更新日は毎月10日とします。但し守れなければすみません…。

更に僕は逃走中作家でもあり大学生でもあるので思うように更新できるかどうか本当に気がかりです。（ええええええ！？）

主にちやお・なかよし・りぼん作品を扱っていきます。但し、ごく稀に花とゆめ・Lala作品になったり、少女漫画から離れ、小学 年生作品になる可能性もあります。

構成テーマは、以下の通りです。

第1部「知ってる人は知っている！？こんな連載モノ」

第2部「皆に伝えたい！こんな読み切り」

第3部「ただいま連載中！今一押しマンガ」

基本的に各パートにつき1作を紹介する形式になります。

第1部では文字通り、過去の連載作品を1作取り上げていきます。前後編の2ヶ月ものから連載と見なします。増刊で定期的に続いた作品もこちらに含みます。年代は関係なく、数年前のものから1980年代のものまでバラエティ豊かに取り上げていくつもりです。

第2部も文字通り、読み切り作品を1作取り上げていきます。増刊で不定期に数回連投された作品は基本的に読み切りと見なします（但し期間が長ければ連載と見なし第1部で扱います）。

第3部も文字通り、現在連載中の漫画から1作取り上げていきます。但し、第3部に関しては、作者が単行本派であることもあり、連載時点の展開に関しては全く扱えませんので悪しからず。あらすじのみを説明するだけと言う可能性も高いです。お断りしておきますが、ご長寿作品もこちらに含みます。

また、このパートが1番ネタに乏しい為、穴が開く（休止になる）回が多くなる可能性があります。

それ以外のミニコーナーも随所に散りばめるかもしれません。

そしてくどいですが閲覧上の注意事項をまとめておきます。

1. この作品は少女漫画をネタにしたバラエティ作品であります。苦手な方は「戻る」ようにお願いします。

2・ここでは主にファンタジー系や動物系、ギャグ系など…と言った作品が取り上げられることが多いです。恋愛一直線の作品は少ないので不満な方は1番と同様に（略）。

3・僕・風見が取り上げた作品についての批判コメントは避けてください。

4・作品は有名無名を問わずピックアップしていきます。それに対しても批判は受け付けておりません。

5・この作品は、会話部分が凡そ95%を占める台本小説です。苦手な方は戻る事をお勧めします。勝手ながら苦情もお断り願います（そもそも趣味の範囲で執筆しておりますので…）。

…と言う訳で以上が概要です。

ネタ切れになるか、執筆不能になるほど忙しくなるまで頑張って更新しようと思います。

次のチャプターは各号のラインナップ紹介にあたる場所です。

各号の紹介作品を毎月1日に随時更新していきます。

（ゲストの原作紹介を兼ねた場所になっております）

内容説明とご注意（後書き）

次のチャプターは12月1日に更新予定です。

そして第1回は12月10日に投稿する予定です。

それまでは、お楽しみに！

各回の紹介作品

文字通り、各回の紹介作品を列挙するところです。このパートをもつて原作紹介に代えさせていただきます。

連載が進むにつれ随時更新していきます。

また、第1部において最初の3ヶ月は通常のピックアップに加え、漫画プレゼンターのメンバーの作品を順番に紹介していきます。

目次

「*」は、「第*部」を意味します。

2011年と2012年

2011年12月号（#01）

1. 「赤ずきんチャチャ」& 「ぜんまいじかけのティナ」
2. 「夢みるサンタクロース」
3. 「チヨコミミ」

2012年1月号（#02）

1. 「ミルモでポン！」

特別編・ぽぽ介初の合作企画！コラボwith「月刊たかくんagcm会話」

2012年2月号（#03）

1・「カードキャプターさくら」&「????」

2・「????」

3・「????」

（全作品公表は2012年2月1日頃に行います。但し休止にする
コーナーがあるかもしれません）

各回の紹介作品（後書き）

次話より第1回が始まります。

第2回は今年1月10日の公開になります。

第1回・2011年12月号（パート1）「赤ずきんチャチャ」（前書き）

いよいよ始まりました！

では是非、僕の好きな少女漫画の世界をお楽しみください！

第1回・2011年12月号（パート1）「赤ずきんチャチャ」

ここは、とある車通りの少ない郊外に建てられた、一軒家。

其処に住んでいるのは……

ぽぼ介「んんんん眠いなんんんん……え？もう朝の10時？」

作者・風見ぽぼ介だ…。

眠い目をこすり、布団を除けてベッドから降りる。如何やら朝が苦手な様だ。いや、実際そうなのである。

ぽぼ介「ま、いつか。今日は授業の無い日だし…」

ここまでは、ごくごく普通（？）の大学生の生活である。が、

ぽぼ介「じゃあ、今日もいきますか。部屋は鍵を掛けて…」

カチャ

風見は扉のツマミを回し、部屋に鍵をかけると、携帯を手にした。

ぽぼ介「もしもし？今大丈夫だから他の2人も連れてこっちおいでよ」

?????1「うん！」

数十分が経過し…

ぼぼ介「そろそろかな」

ガラガラドシャーン！

突然、大きな音がそこらじゅうに響き渡った。音は彼の部屋のクローゼットからである。そのクローゼットから……

ぼぼ介「ありやりや……今日も派手な登場だね……みんな」

3人の女の子が現れたのだ。

1人は金髪のツインテールで、3人の中では一番年上。

もう1人は茶髪のショートヘア。

で、最後の1人は赤い頭巾を被っている。

?????1「あいたたた……」

?????2「ほえ……」

?????3「なんでこんな体張る必要があるのよぉー……あたし慣れてないのに……」

ぼぼ介「いや、?????3は毎回ギャグ経験してるから大丈夫でしょ。それに頭巾も付けてるし」

?????3「そんな冷たい言葉で片付けないでよー!!」

先に断わっておくが、この作品自体は恋愛小説ではない。

では、何だと言うのか。

それは……

ぽぼ介「ではいきましょう！第1回『月刊！ぽぼ介的少女漫画パラダイス』！司会を務めますのは僕・風見ぽぼ介と、」

楓「南楓と、」

さくら「木之本桜と、」

チャチャ「チャチャです！」

ぽぼ介「この4人がレギュラーとなってお届けします！初回だから楓ちゃん、軽く説明を」

楓「はい！この小説は、にじファンではあまり触れられる事のないジャンル『少女漫画』について、私たちが楽しくおかしく取り上げていこうと言つものです！」

さくら「読み切りから人気作品まで、幅広く選んでいきます！」

チャチャ「つい最近の連載からけっこー前の連載までいろいろ語っちゃいます！」

ぽぼ介「そうだね。3人の中で一番古いのはチャチャだもんね」

チャチャ「古いってどーゆー意味よ！？赤ずきんチャチャは名作よ
くっ……！」

楓「チャチャ、事実だよ事実…90年代前半でしょ？」

ぽぼ介「まあ確かに名作だけど…チャチャに関しては、にじファンでは初耳な人多いと思うよ？」

チャチャ「そんな…しょぼーん…」

楓「にじファンだとさくらちゃんが一番有名じゃない？ツバサなんてのもあったから…」

さくら「そ、そうなの？だったら嬉しいな…」

楓「……………チャチャ？」

さくら「チャチャちゃん、どうしたの？浮かない顔して」

楓（チャチャちゃんって…呼びづらい…）

ぽぼ介（呼びづらいけど…小説だから別にいいか…）

チャチャ「いいもん！ヒロインには過酷な道が待っていて当たり前なのよ！これも試練だわ！」

楓「チャチャって調子いいよね…」

ぽぼ介「じゃあ早速、いってみようか！『知ってる人は知っている！？こんな連載モノ』！」

1. 知ってる人は知っている!? こんな連載モノ

ぽぼ介「タイトルが全てを物語ってますね。補足するとすればちょっと前に連載された作品を紹介するコーナー、と言う感じですよ。今回このパートを受け持つプレゼンターは、さくらちゃんとチャチャ! 先ずはチャチャからいつちやって!」

チャチャ「はい! 今月から2月号まではあたしたち漫画プレゼンターの商品も一緒に紹介しちゃおうと言う事で、そのトップバッターはこのあたし!」

ぽぼ介「はい! じゃあ早速主人公に紹介してもらいましょう!」

チャチャ「タイトルは、『赤ずきんチャチャ』!」

その1・「赤ずきんチャチャ」

(りぼん1992年7月号〜2000年8月号)

作: 彩花みん)

あたし、チャチャ!

真っ赤な赤ずきんがトレードマークのもちもち山に住んでる魔女のたまごです!

得意なのは召喚魔法なんだけど…

空に浮かんでる綿帽子を雲に変えようとしたら、

「綿帽子、綿帽子、雲になれ!」(アニメ版1話より)
ポンッ!

間違えて蜘蛛に変えちゃった!!

「あゝあゝっ!!」

こんな風に、失敗を重ねちゃうの…。

あたしに魔法を教えてくださいるのが、
世界一の大魔法使い・セラヴィー先生。

そんなある日、セラヴィー先生が、
うりずり山に住む魔女・どろしーちゃんにさらわれてしまったの！
大変！助けに行かなくちゃ！

チャチャ「これが赤ずきんチャチャのあらすじです！」

ぼぼ介「確かに、セラヴィー先生がさらわれるところは原作とアニメ版どちらにも共通した粗筋だね。でも…ミスリードにならない様に補足だけど、」

チャチャ「何かあるの？」

ぼぼ介「チャチャは、原作では列記としたギャグ漫画なんですよ」

チャチャ「えええ!!?あたしてつきりラブコメー直線の漫画だと思ってたのに…!?!」

楓「どこが『一直線』なの…?」

さくら「恋しない訳じゃないけどね…」

ぽぼ介「うん…この粗筋だけ読んで冒険&恋愛マンガだと思ったら大間違いで、知らずに外で読むと…後悔しますね」

さくら「…あれ？チャチャちゃん？また浮かない顔…」

チャチャ「あたしだって…真面目に恋したかった……」

楓「いや、それは難しいよ…」

ぽぼ介「チャチャ、チャチャ……、宣伝したくないの？アレ」

チャチャ「いや、したい！」

楓（ホントに上がり下がり激しいね、チャチャ…）

ぽぼ介「じゃあまず原作の説明からいこうか。原作とアニメじゃまるで違うからね」

チャチャ「うん。まずは原作！」

〈原作〉

原作は、あたし（チャチャ）がセラヴィー先生と鬼ごっこをすることから始まるの（第2話〜10話）。え？どうして鬼ごっこか？それは、1人前の魔法使いになるためには、その鬼ごっこで自分の師匠を捕まえないといけないからなの。いわゆる「検定」ね。でも、向かう先には、数々の災難が……！！狼男のリーヤと魔法使

いのしいねちゃんと一緒に、セラヴィー先生を追いかけて大パニックー！

くアニメ版く

魔法学校に入学する日が近くなったとき、セラヴィー先生があたしに渡したのは、プリンセスメダリオンっていうペンダントに、指輪とブレスレット。指輪とブレスレットは、「最も信頼できる2人にあげなさい」ってセラヴィー先生に言われたの。

どろしーちゃんに誘拐されたセラヴィー先生を助けに行って、ピンチになった時に傍にいたリーヤにはブレスレット、しいねちゃんには指輪をあげたの。その時、それぞれのアイテムについてる宝石が光り出して…！

「愛よ！」

「勇気よ！」

「希望よ！」

気づいたら、あたし達はこんな掛け声をかけていて、それからあたしは…

「愛と、勇気と、希望の名のもとに！マジカルプリンセス、ホーリーアップ！」

邪悪な心をも打ち抜く事の出来る、マジカルプリンセスに変身していたの！

チャチャ「そんな感じだよー」

さくら「チャチャちゃん…思ったんだけど、」

チャチャ「何？」

さくら「アニメと原作って…そんなに違うものなのかな…？」

チャチャ「うん。よくあるでしょ」

ぼぼ介・楓「いや、稀だよ（稀よ）……」

ぼぼ介「まあ、つまりは、大人の事情じゃないかな…。マジカルプリンセスっていう要素が無かったら玩具のバリエーションも全然無かったらしいし…」

楓「でもこれは…替否両論よね」

さくら「どうして？」

ぼぼ介「ほら、原作知ってる人はアニメでもギャグ一直線でやってほしかったって言うのがあったかもしれないけど…アニメはどう見ても変身ヒロインの要素びんびん入ってるからね（アニメでもギャグ要素はあります）」

楓「チャチャは原作とアニメ、どっちが良かった？」

チャチャ「アニメ！」

楓「どうして？」

チャチャ「邪悪な心をビューティーセレインアローで打ち抜くって、カッコいいもん！」

さくら「なるほど〜でもさ、呪文を唱えるところも醍醐味だよね！」

チャチャ「うんうん！ますますカッコいいよね〜」

楓「……いいな〜……毎回毎回そんな事が出来るのよね……」

ぼぼ介「あ……そっか……楓ちゃんはあんまりそう言うの無かったっけ……」

数分後、

ぼぼ介「じゃあ、本日の1組目のゲストに来てもらいましょう！楓ちゃんはもう大丈夫？」

楓「うん。何とか……」

ぼぼ介「じゃあチャチャ、いつちやって！」

チャチャ「うん！1組目は、リーヤとしい……」

ドンガラガツシャーン！！

ぼぼ介「あららら……」

さくら「いい加減なんとかならないかな、このクローゼット……」

楓「そっだよね……」

ぼぼ介「金かかるのはキライ」

3人「あのねえ……」 冷たい眼差し

リーヤ「あいててて……」

しいね「おいリーヤ！なんでお前が上なんだよ！？」 リーヤの下敷きになっている

リーヤ「知らねーよ！勝手にそうなってたんだよ！」

しいね「知らないの一言で片付けるなよ！」

リーヤ「気付いたらそうなってただけだろ！？」

……

ぽぼ介「……… チヤチヤ」

チヤチヤ「 無言で頷く

チヤチヤ「ケンカしてるリーヤとしいねちゃんなんか大っ嫌い！！」

リーヤ・しいね「………」

リーヤ「いや〜冗談に決まってるじゃんかチヤチヤ」

しいね「そうですよー。仲が良いほど喧嘩するって言っじゃないですか」

が、そう言いながらお互いに足を踏み合っている…

ぽぼ介「……やっぱり修繕が必要だね、ここは…2回目までにはなんとか直そう」

またまた数分後、

チャチャ「気を取り直して、本日のゲスト1組目はリーヤとしいねちゃんです！」

リーヤ「よっ！リーヤだぜ！」

しいね「こんにちは。しいねちゃんです」

ぽぼ介「しいねちゃんなんて言いますが、列記とした男なんで…」

注)お断りですが、ここではリーヤのキャラクターは単行本1〜5巻の時の状態です。連載後半以降の幼児キャラではありません。

ぽぼ介「まずリーヤ君！月が無くたって狼に変身できちゃう狼男です！じゃあ早速変身してみてくださいよ」

リーヤ「合点だぜ！」

ポムッ！

狼だとは言つもの……

楓「可愛い〜〜！」

狼リーヤ（カッコいいって言ってほしいんだけど…）

それはムリ。どう見ても子犬にしか見えないから。

さくら「あたし抱いていいかな!？」

チャチャ「うん」

さくら、狼リーヤを抱きかかえる。

さくら「うわ〜〜!ふわふわのもこもこってよくチャチャちゃん言
ってたけど、本当にふわふわだよ!」

ぽぼ介「どっちかって言うと勇者というよりはマスコットかな?」

狼リーヤ「だから…カッコいいって言ってほしいのに…」

しいね「カッコいい?犬に変身出来るだけで意味なんて何にも無い
だろー?」

狼リーヤ「何だと〜!この腹黒(?)魔術師!」

しいね「僕は魔法が得意なんだ!」

ポン!

彼は何かを召喚した。それは…

しいね「チャチャさん、(この小説の)レギュラー出演おめでとう
ございます。この花は、その…記念にあげます」

チャチャ「しいねちゃん……ありがとう」

狼リーヤ「だつせーなー。ただ女に花をあげたらいいってもんじゃ
ねーだろ?」

しいね「能無しのお前には言われたくない!」

狼リーヤ「何だど〜!」

また、始まった…

すばーん!!すばーん!!

ぼぼ介「ケンカするなら帰れ!」 手にハリセンを持っている

リーヤ「ふえい…」 変身が解けている

しいね「はい…」

ぼぼ介「では気を取り直して、インタビュータイムです。まず1
つ目、『チャチャ』とは一言でいえばどんな漫画ですか?」

リーヤ「悪者退治!」

しいね「それはアニメ版だろ…原作の方は、『大騒ぎ』とでも言いましょうか」

ぼぼ介「どんな風で大騒ぎしますか？」

しいね「そうですね…僕たちの世界には『当たり前』って言う概念が殆ど無いですね…それ程はっちゃけてます」

リーヤ「オレの友達はアゴが外れたって言ってたぞ」

楓「アゴが外れたの…それはご愁傷様よね…」

ぼぼ介「では2つ目。既に軽く触れましたが、リーヤは連載途中からかなりキャラが変わりましたね」

リーヤ「そうみたいだけどな…」

ぼぼ介「今は連載初期のリーヤだったりしますが、途中から激変しちゃいましたよね。どんな感じでした？」

リーヤ「『なのだ』とか『だじょ』とか某アニメを連想するような口癖になった」

チャチャ「そう言えばリーヤの精神年齢が回を重ねるごとに下がっていったような…」

さくら「そんなリーヤくんもいいかもね」

ぽぼ介「ごめん、僕は初期派だね。あつちのリーヤも嫌いじゃないけど…」

楓「でもキャラが変わってからは狼に変身したシーンが多かったね。そう考えると狼リーヤが好きだったら幼児派も…かな？」

しいね「でも幼児リーヤは初期よりも目をキラキラさせすぎた感が否めないですね」

リーヤ「さ、させ過ぎた』って何だよ…」

ぽぼ介「では3つ目。『チャチャ』主要キャラクター8人の複雑な関係に触れましょうか」

楓「これがまた複雑なのよね…」

ぽぼ介「ではまず僕が作った相関図をご覧ください。因みにこれは僕の初挿絵になります」

> i 3 6 1 4 5 — 4 5 2 4 <

改めて紹介。

チャチャ（主人公）…魔法の見習い。赤いずきんがトレードマーク。リーヤ…狼男。月が無くても狼（？）に変身できる。

しいね…魔法使い。召喚・飛行に留まらず変身・魔法弾等も得意とする。

マリリン…ぶりっこ人魚。リーヤに一目惚れする。

やっこ…黒ずきんの魔女（子供）。セラヴィーに惚れている。

お鈴…桃ん賀流の忍者。「チャチャ」の中では一番まとも。
セラヴィー…世界一の大魔法使い。
どろしー…世界一の大魔法使い…の座を狙う魔女。

チャチャ「うわ〜改めて見てみると事の重大さ(?)が…」

ぼぼ介「まずリーヤとしいねちゃん…はさっきの登場シーンを考えると分かりやすいから省略」

リーヤ「オイ!…」

ぼぼ介「余りにも複雑なので、ここでは2つの関係だけに的を絞っていきましょう。まずリーヤとマリンちゃん!」

しいね「リーヤ、さっき無駄に怒っただろ」 話題に上らない為や
やひがんでいる

チャチャ「まあまあしいねちゃん…本気で聞くけど、リーヤはマリンちゃんのことどう思ってるの?」

リーヤ「怖い…」

チャチャ「そうよね…あんなのとカップルになったら体がもたないわ…ちよつと安心」

ぼぼ介「ワンウェイラブとしか言えないよね、アレ…」

しいね「如何してかは分かりませんが、マリンちゃんは狼リ-

ヤがりーヤであることに気付かないんですよ」

楓「それでマリンちゃんが襲って来たらしょっちゅう狼に変身するのよね」

りーヤ「まあな」

ぼぼ介「で、もう1つはチャチャとやつこちゃん」

さくら「ほええええ!?!」

りーヤ「どっとうしたんだ!?!」

さくら「イヤ…まさか…同性ど…」すぱーん!

ぼぼ介「さくらちゃん、いくらなんでも限度が……」ハリセン持ち

楓「さくらちゃん、相関図見てなかったの…?」

チャチャ「的外れにも程があるよ、さくらちゃん…実際はあたしとやつこちゃんはライバルなの」

ぼぼ介「別にチャチャはセラヴィー先生のこと男として見てるシーンはないのに、やつこちゃんが『チャチャはセラヴィー様を一人占めしてる』って聞かないからだよね」

しいね「年上に恋してるんですよ、やつこちゃんは」

楓「成程…年上に恋愛ってうち(ちゃお)でもあったよ…」放課後

チルドレン』っていう漫画で」

ぽぼ介「あれか〜小五の女子が先生のことを気になるっていう話だよね」

リーヤ「へ〜実際別の漫画にもけっこうあるもんだな、やつこちゃんみたいな恋愛も」

チャチャ「そうよね。ただやつこちゃんは…図太すぎる…」 脱力

楓「お疲れ…私も日高さんっていうライバルがいるからね…」 脱力

リーヤ「お、おい、大丈夫か?!?!」

ぽぼ介「じゃあチャチャ、リーヤ、しいねちゃん！お待ちかねのアレ、告知しちゃって！」

チャチャ「はい！じゃあいくよー…1992年から2000年まで連載された赤ずきんチャチャが、またまた読み切りで解禁となりましたー！」

リーヤ「ファン待望の読み切り『赤ずきんチャチャN』第2弾！」

しいね「2012年1月号Cookieの別冊付録に掲載です！皆さん、是非2011年12月24日頃までにお買い求め下さい！」

ぽぼ介「はいどうもー！さっきチャチャが『またまた』って言った

の4名です)

楓・さくら「わあ〜〜豪華ね〜〜！」

リーヤ「本当にいろんな先生に描いてもらって…オレたち嬉しいぜ！」

しいね「これはもう感激ですね…！」

チャチャ「あたしたち、風見くんにも読まれてるのは嬉しいけど…風見くんって異端児？」

ぼぼ介「言うな〜〜〜〜〜〜！！！」

チャチャ「うわ〜い！」

風見はハリセンを持って、箒で部屋の中を逃げるチャチャを追いかけ回した……。

<休憩タイム>

しいね「くどいようですが、リーヤは本家では現在はこんなキラです」

リーヤ「本当にうれしいのだ。感激だじょー」

しいね「かなりの激動だよな…」

リーヤ「ああ…確かに変わりすぎたよな…」 遠い目

しいね「あ、因みにチャチャさんとお鈴ちゃんがにじフアンさんの
逃走中に出てるんですよね」

ぼぼ介「うん。うちの逃走中にその2人が出場してるのでそちらも
合わせて宜しくお願いします!」

第1回・2011年12月号（パート1）「赤ずきんチャチャ」（後書き）

文字数の問題もあり、ここで区切りを付けさせて頂きました。

今月号の続きは次のチャプターに続きます。

こんなグダグダな小説ですみません…。

第1回・2011年12月号(パート2)「ぜんまいじかけのティナ」&「夢

パート2では第1部の2作品目「ぜんまいじかけのティナ」と、

第2部(読み切り)「夢みるサンタクロース」を紹介します。

第1回・2011年12月号(パート2)「ぜんまいじかけのティナ」&「夢

その2・「ぜんまいじかけのティナ」

(なかよし1999年11月号)2001年2月号。

作画：あゆみゆい/原作：明貴美加)

ぼぼ介「ゲストのリーヤとしいねちゃんも引き続きよろしくお願
いしまーす！」

リーヤ「おう！」

しいね「はい！」

チャチャ「じゃあさくらちゃん、よろしく！」

さくら「はい！続いて紹介する作品は、『ぜんまいじかけのティナ』
！」

あるところに、背中にぜんまいを持った人が暮らす島・ぜんまい
島がありました。そこに住んでいる1人の女の子、ティナ・ティア・
リールはみんなの人気者。何でもティナにねじを巻いてもらった住
人さんはその日1日元気に生活出来るんだそうです。

そんなある日、ティナは奇跡があるとされる「ひとむかし滝」
の向こうから突然、謎の男の子が現れるのを見たのです！ぜんまい
島の住民には皆背中にぜんまいがあるのに、彼には無く、しかも彼
は自分の名前も故郷も記憶に無く、唯一知っている事は「自分が旅
人であること」だけで…！？

さくら「以上があらすじです！」

しいね「背中にぜんまいですか…不思議な世界観ですよね」

チャチャ「ぜんまいじゃないけどねじまき都市^{シティー}なんてのもあったわよね」

(厳密にはぜんまいじかけでは無いが…)

リーヤ「ぜんまいって言ったらぜんまいざむらいだろ？」

楓「ふふ」

ぼぼ介「あれ、楓ちゃんどした？」

楓「いや、ぜんまいざむらいって聞いてさ…うちのヤシチを想像したの」

ぼぼ介「あ、鈴木晶子さん繋がりか」

チャチャ「確かに(妖精)忍者と侍は似た感じがするから同じ人だと面白いわね」

さくら「あの…」

さくら以外「あ…(汗)」

さくら「そろそろ…お招きしてもいいかな？」

ぽぼ介「はい、どうぞ…」

さくら「それでは、『ぜんまいじかけのティナ』より主人公のティナ・ティア・リールちゃん、どうぞー！」

ボスツ！！

ぽぼ介「あゝ良かった、僕の布団で丁度いいクッションになってる…」

ティナ「あたた…」

チャチャ（不味いかも…）

ティナ「これって…」

楓（開始早々クレーム付けられちゃう…！？）

ティナ「楽しいわね！」

チャチャ・楓「えつつ！？」

ぽぼ介「そうそう！第1回仕様でスリル満点の仕掛けにしてみました」

楓（違うでしょ…）

ティナ「凄いわ！」

チャチャ（あらららら…）

さくら「と言う訳で本日2組目のゲストのティナちゃん、よろしくね！」

ティナ「うん！」

しいね「それにしても凄いですね…コスチュームが！」

楓「そうね。ぜんまいって言うのも凄いけど…」

ぽぼ介「なんて説明したらいいかな…」

（ティナの姿は「ぜんまいじかけのティナ」で画像検索したら単行本表紙として出てきます。本当にすごいコスチュームです）

リーヤ「あ、説明下手の作者が誤魔化して逃げたぞ」

ぽぼ介「……………」

ぽぼ介「じゃあ早速インタビュータイム！まず1つ目ではティナの世界観に触れる前に、原作の明貴先生&作画担当のあゆみゆい先生について軽くティナと一緒に学びましょうか」

ティナ「はい！」

さくら「じゃあまずティナちゃん、知っている人も多いとは思いま

楓「それなのに何でアニメにならなかったんだろ…」

ぽぼ介「確かに今更だけど少し思ったよ」

さくら「で、次は作画担当のあゆみゆい先生についてです。ティナちゃん、お願い！」

ティナ「うん！あゆみ先生は1987年に増刊でデビューされて、『ようこそ！微笑寮へ』『デリシャス！』などといった連載をされた方なの。特徴としては、原作付きの連載が多いことね。あゆみ先生の単行本は29冊あるのよ（デリシャス！のレシピブックを除く）」

楓「うわ〜29冊も！？篠塚ひろむ先生も25冊（2011年12月10日現在。アンソロジー及びファンブックを除く）だけど結構ベテランさんだったりするのね…！」

ぽぼ介「29もリリースしてアニメが一個も無いって言うのが少し残念だけど、個人的にはなかよし伝説として語ってもおかしくは無いよ」

リーヤ「え、あつただろ？アニメ…」

しいね「いや、無かったぞ」

リーヤ「ナージャは？」

ぽぼ介「いや、それは東映アニメが元ネタだよ…？」

ティナ「アニメは無かったけど、『微笑寮』のイメージアルバムはあったのよ、麻琴ちゃん」

さくら「うん！知ってるよ」

リーヤ「え…真琴って言う女はここにはいないだろ…?」

楓（耳打ち）「リーヤくん、中の人繋がりよ」

チャチャ（ホント今考えると豪華ラインナップよね…丹下桜さんに山口勝平さんに…）

ぼぼ介「2つ目では…ティナの愉快的仲間たち代表3人+ を紹介して下さい!」

ティナ「はい！まずみんなの名前が、かえる姫とシヤマ、パンプー、そしてフワフワなの」

さくら「じゃあティナちゃん、ここにボードがあるからこれで説明を進めるね」

ティナの仲間たち

・かえる姫（ ）

みてくれはヒトと同じ（カエルと言う訳ではない。但し父親がカエルの姿）。

かえるを連想させる薄緑色の頭巾を被っている。

2人称は「そなた」。
4人の中では一番まとも。

・シヤマ（ ）

魔法が使える（先端が星型のステッキ）。

らせん状に縞模様のとんがり帽子を被っている。

食い意地が張っている（笑）。

たまに歌を歌い出すが、ヘン。

・パンプー（ ）

常にかぼちゃのお面を被っている（一度も脱いだ事は無かった）。
シヤマに対してツッコミ役をすることが多い。

・フワフワ（？）

いつもティナと一緒にいるちっちゃくて真っ白な生き物。

ぜんまい村の住民と違い、ねじが無い。

名前の通り、体毛がふわふわとしている。

ぽぼ介「とまあこんな感じですね。と言う訳で、もう3人ゲストを
迎えております！どうぞー！」

ボスッ！

かえる姫「無礼な呼び方だぞ、この作者…！」

ぽぼ介（うわー！）

パンプー「ビックリした…」

シヤマ「楽しいよ、コレ〜！もう一回やらせてー！」

楓（ティナちゃんとシヤマちゃんって一体…）

その後、風見はかえる姫に15分程時間を使って許しを請いた。

さくら「あはは…改めましてかえる姫さんとパンプーくん、そしてシヤマちゃんです！」

ぼぼ介「ではまずかえる姫から！台詞だけだと男の子とも間違えてしまいそうな感じだけど…」

かえる姫「よく言われる。しかしわたしは列記とした女だがな」

ティナ「あとほっぺの様子が楕円で、ミルモみたいよね？」

楓「うんうん！性格は全然似てないけど…」

しいね「かえる姫さんの跳躍力って…どの位ですか？」

かえる姫「いや、全然無いぞ、そんなもの…」

チャチャ「しいねちゃん、ミモリちゃんとは違うよ…？」

（詳しくは「ケロケロちゃんむ」のミモリの情報を探してみてください
さい）

しいね「ですよね…すみません」

さくら「次はシャマちゃん！」

ティナ「シャマは本当にいろんな顔をするからね、楽しくなっちゃ
うわ」

シャマ「えへ！シャマはいつも〜お元気なの〜」

楓（ホントにヘンな歌だ…）

ぼぼ介「と言いつつ、当初は目を描かれないキャラって言う設定
だったみたいで…」

（ 単行本1巻のあらすじスペースより ）

ティナ「でもメンバーの中でも一番愉快だったのがシャマなの」

チャチャ「言う割にはかなりはつきりと目が描かれてるよね…」

ぼぼ介「で食い意地が張っている」と

リーヤ「ピンクボールかよ…」

シャマ「ちょっとそれどーゆー意味!？」

さくら「次はパンプーくん！」

しいね「お面をとらないってことは…シャイなんでしょうか?」

楓「それとも何かしら呪いがかかっていると?」

チャチャ「実は驚きの素顔だったりするのかも!？」

パンプー「いや、それはね……………」

ぼぼ介「若しかして、ティナも見た事無い？」

ティナ「ないね…………」

チャチャ「よし!じゃあ今見ちゃおーか!」

パンプー「それは止めて…………!」

楓「いや、ホントにやったら不味いかもよ…………ギャグ漫画になりかねないし…………」

ぼぼ介「最後にフワフワ!実はフワフワも連れて来てるんだよね？」

ティナ「うん。ちょっと待ってね…………出たおいでーフワフワ!」

ぴよこっ

フワフワ「フワフワっ!」

一同「うわ……………!!可愛い……………!!」

楓「ちょっと手に持ってみていいかな？」

ティナ「うん!」

楓「うわ〜凄いよ〜フワフワのモコモコね!」

ティナ「モコモコは無いと思うけど…」

チャチャ「フワフワのモコモコって…無理矢理だよ」

ぽぼ介「あ〜何か叫びたくなるな……ラッキー……!」

フワフワ「フワ?」 風見の方を向く

ぽぼ介「うひゃ〜!こっち向いた〜!」

ティナ「いや、それってマー審司さんの…?」

さくら「そして最後に、滝の向こうから現れた謎の男子についてです」

ティナ「旅人だから、『旅人さん』って呼んでるの」

チャチャ「『旅うさぎさん』みたいな響きがするって思ったよね!
?楓さん?」

楓「いや、確かに思ったけど…これは『はぴクロ』じゃないよ…」

ティナ「旅人さんに出会ってから、最初は何故か分からなかったけど、ねじが速く進んで…」

楓・チャチャ「なるほど〜ぜんまいじかけだとそうなるのね」

さくら「ほえ？」

楓「だから、心が『コトコト』っていつもよりはやく鳴るような感じなのよね」

チャチャ「そうそう！」

ぼぼ介「あ~~~~~」

リーヤ「おいおい！？一体急にどうしたんだよ！？」

ぼぼ介「やっと分かった、ぜんまいの意味が！」

しいね「ぜんまいの意味…ですか？」

ぼぼ介「ぜんまいは、ぜんまい島の住人にとって『心』なんだよ！」

ティナ「いや、お話の中でもそう言ってた筈だけど…」

ぼぼ介「確かにそうだけど…（汗）、改めて分かったよ。『何故かねじの動きが速いこと』と『ある事件』（2巻参照）から考えても分かるよね」

ティナ「うん」

楓「ぜんまいが心…ロマンチックよね」

さくら「話がまた逸れちゃったけど…その旅人さんは全てが謎に包まれていて、自分ですら何者か分からなかったのよね」

ティナ「うん。それでもわたし達は旅人さんと友達になりたくていろいろな事を頑張ったの」

さくら「本当に何も覚えてなくて、『うれしい』なんて言う言葉の意味もここで学ぶのよね」

ティナ「そうなの。でも、そんな時、ぜんまい島のみんなに大事件が起きて、旅人さんもいなくなって…」

楓「はいストップ！あまり全てを話し過ぎるとあれだからね…」

ティナ「えへ…そうね。続きは是非KCなかよし『ぜんまいじかけのティナ』（全3巻）でお楽しみください！」

さくら「以上、『ぜんまいじかけのティナ』でした！」

<休憩タイム>

ぼぼ介「思ったんだけど…ティナってあゆみ先生の『じかけシリーズ2作目じゃない？』

ティナ「な…何それ？初めて聞くけど…」

ぼぼ介「ほら、『時計じかけのエトランゼ』もあつたじゃん」

ティナ「なるほど…でもそれ1990年の連載よ…？」

かえる姫「年代も10年近く離れていて、何の接点も無いな」

ぽぼ介「そーだけどさあ…ほら、似てない？」

ティナ・かえる姫「似てない!!」

チャチャ「かえる姫と一緒に写真撮っていいかな？」

かえる姫「構わぬが、どうしてだ？」

チャチャ「ずきん仲間!じゃありーや、シャッター押して!」

リーヤ「オツケー!」

パシヤ

チャチャ「ありがと!これは良い画になってるよね…!」

ぽぼ介「では次に行きましょう!」皆に伝えたい!こんな読み切り』

2・「皆に伝えたい!こんな読み切り」

ぽぼ介「これもタイトルのまんまですね。年代がいつかというのは関係なく、読み切り作品を扱っていいこうと言うコーナーです。今回の担当は楓ちゃんです!それでは、お願いしますっ!」

楓「はい!今回私が紹介するのは、私とミルモの生みの親・篠塚ひろむ先生の初期作品『夢みるサンタクロース』です!」

「夢みるサンタクロース」

(ちやお1999年12月号。単行本「恋はオン エア!」に収録。
作：篠塚ひろむ)

雪村聖香(ゆきむらきよか)は14歳の女の子。普段は普通の中学生だけど、実は一人前のサンタになるのが夢の「見習いサンタ」。が、彼女はソリの運転が上手く出来ず、身体能力にも劣る部分があり、これまでに一人前のサンタになるための試験「サンタ資格試験」に幾度となく不合格になったのだとか。しかも資格試験は14歳以下でないと受けられない為、今年がラストチャンスという運命の年に、優等生であるいとこの冬夜(とうや)くんが彼女のコーチをすることになって…!?

楓「そんな一人前のサンタになりたい聖香ちゃんの物語と言ったところですよ。今月は12月と言う事でこの作品をセレクトしてみました!」

ティナ「この時期にピッタリの話題よね」

チャチャ「そー?」

さくら「ほえ?」

チャチャ「あたし、サンタさんの事信用してないし」

シヤマ「ええええええ!?!」

かえる姫「おいそなた！仮にギャグ漫画であろうと少女漫画だぞ！
？そのような無神経な発言はあってはならぬだろ！」

チャチャ「だって…幕で二人乗り出来ますようにって願ってもサン
タさんは何もくれないんだもん」

ぼぼ介「それはチャチャ自身が修行しなきゃ駄目だろー！ー！」

楓「……はい。では本日3組目のゲスト・雪村聖香ちゃんです！」

ボスツ！

楓（ありやりや〜…また派手に…）

クローゼットから大きな音を立てて現れた少女・聖香はサンタク
ロースの格好をしていた。

聖香「あたた…」

シヤマ「あー！サンタさんだ〜！」

楓「聖香ちゃん、サンタは煙突から落っこちるよね？だから大丈夫
でしょ？」

聖香「楓さん、そんなサンタ古いですよ…あいたたた…」

楓（あ…そうだった…聖香ちゃんはベランダから家に入るんだっけ
…）

楓「あはは…じゃあ聖香ちゃん、今日はよろしくね！」

聖香「こちらこそ、よろしくお願いします！まず挨拶と言っては難
ですが、みんなにクリスマスプレゼントを持ってきましたー！」

プレゼント。それは…チョコレート！それも何とぜんまいの形で
ある。

聖香「ティナちゃんも来るということで、こんなチョコを用意しま
したー！」

ティナ「うわ〜ぜんまいの形…本当に嬉しい！」

楓「ぜんまいが心だから尚更よね」

ぽぼ介「あ、チャチャの分は僕が貰うから」

チャチャ「えええ！？何で〜〜〜！」

パンプー「サンタさんの悪口言っちゃうと無理もないよね」

かえる姫「そうだな」

シヤマ「シヤマもつと欲しいー！」

リーヤ「オレもー！」

しいね・かえる姫「ホントに食い意地だけは…」

楓「聖香ちゃん、夢サンタからは離れるけど、ひろむ先生について紹介しよっか」

聖香「そうですね。篠塚ひろむ先生は1999年夏に『卓球少女』（ちゃおデラックス）でデビューされて、代表作には『ミルモでポン!』『恋するプリン!』『ちび デビ!』がありますね。特に『ミルモでポン!』は2003年にアニメ化されて、3年半の間テレビ放映されました!」

楓「そんなひろむ先生が現在（2011年12月現在）ちゃおに連載中の作品『ちび デビ!』が、今年2011年10月から『大! 天才てれびくん』内でアニメ化されて放送中です!毎週月曜日に天てれのどこかで放送されますので、是非ご覧下さい!」

チャチャ「でもそろそろ総集編のシーズンだから毎週月曜日とかあんまり関係無いんじゃない?」

楓「ちよつと待ってよ!それを今から説明するから!」

聖香「見逃したという方は総集編のシーズンのうちには是非いくつか見て下さいね!」

（次の週12/12〜15は通常OA週。そのため最新作は12/12OA）

ぼぼ介「さて、夢サンタの本題に行きましょう!」

楓「そうね。じゃあまず、いとこの冬夜くんについて触れていきましょっ」

聖香「え…やっぱり話さなきゃ駄目なんですか？」

チヤチヤ「き、聖香さん、もしかして、もしかすると、聖香さんと冬夜さんは」

聖香「違つよ〜〜！いとこだよ!？」

かえる姫「否、日本ではいとこ同士でも結婚は出来ると聞いたが…
(4親等以上離れている場合につき可能だそうです)

リーヤ「なあ作者、ホントのところどうなんだ？」

ぼぼ介「それは僕にも分かんないな…これ愛が皆無って訳じゃないけど…どっちかって言うとなんか…って言う自己実現を描いた物語だと思う…」

聖香「そうです！誰があんなイヤミな優等生なんか…」

楓「あはは…余りにも苦手だったから当初は3等身になって走って逃げようとしたのよね」

聖香「そうですよーだって最年少で(サンタ)資格試験に合格したからって私の事をバカにするし…」

楓「そんな冬夜くんが聖香ちゃんをコーチすることになったのよね」

聖香「そうですね…」

ぼぼ介「で、特訓当初のサンタとしての腕前は？」

聖香「最悪ですね…冬夜くんと同じソリ・トナカイで運転してもヘナヘナしてましたから」

チャチャ「え！？ヘナヘナするってアルコールのせいじゃ…」

聖香「まだ14歳よ！！」

楓「それから…身のこなしも上手く出来なくて特訓中に思いつきり転倒したのよね」

聖香「はい…本当に痛かったです」

シヤマ「サンタさんって大変なんだね…」

楓「それから冬夜くんの過酷なコーチが続いて行くのよね」

聖香「はい。本当に過酷で朝から夜まで忙しい日が続きました」

楓「そんな聖香ちゃんですが、果たして最後のチャンスを生かすことは出来るのか」

聖香「そうですね。続きは篠塚ひろむ先生の単行本『恋はオンエア！』からチェックして下さい！」

楓「以上、『夢みるサンタクロース』より雪村聖香ちゃんでしたー！」

<休憩タイム>

楓「ごめんね…読み切りだとあんまり深く掘り下げられなくてね」

聖香「いやいや…こんな所に登場出来ただけでも嬉しいですよ」

チャチャ「読み切りキャラで会話って言うのは滅多に無いと思うし…貴重じゃない?」

ぽぼ介「そうだね。記念すべき最初の読み切りキャラかもしれないよね」

リーヤ「あ、でもオレたちも読み切りで始まったぞ」

楓「私もそうだけどさ…結局連載になってるからカウントに入れちゃだめよ…」

シヤマ「サンタさん、がんばってー!」

聖香「えへへ…ありがと、シヤマちゃん!」

第1回・2011年12月号(パート2)「ぜんまいじかけのティナ」&「夢

次のパート3で今月はラストとなります。

オマケもありますよ。

第1回・2011年12月号（パート3）「チヨコミミ」&おまけ（前書き）

今月のラストパートでは、

第3部で「チヨコミミ」を紹介します。

そしてオマケコーナーでチャチャが…！

第1回・2011年12月号(パート3)「チヨ」ミニ「&おまけ

ぼぼ介「では、ラストはこちらです！」ただいま連載中！今一押し
のマンガ『」

3. ただいま連載中！今一押し of マンガ

ぼぼ介「これも文字通りで、今連載中の漫画から気になる漫画をピ
ックアップしようと言つものです。が…」

一同「『が』？」

ぼぼ介「はつきり言つて最近連載が始まつた作品はあまり取り上げ
られない可能性があります。と言つのも、僕は単行本派ですので…」

リーヤ「あーあ、本誌を買つてるみんなを裏切つてるぜ」

しいね「いや、そこまで言つか…？」

ぼぼ介「ただ、その作品の序盤のエピソードがネット上で公式に一
般公開されていたらそれを参考にして取り上げるかもしれません」

チャチャ「手抜きだ…」

ぼぼ介「それを言うな〜〜！！ホントに金に困つてんだから！！」

シヤマ「おつかねーのなーるきーはどーこにーあるー」

楓（やっぱり歌うんだ…）

ぼぼ介「後は…このコーナーでは10年以上続いている作品も取り上げるかもしれません。例えば『みい子』だとか、あと『わんころべえ』も有り得るし…」

さくら「わ、わんころべえは結構歴史が深いね…」

ぼぼ介「いろいろ長くなっただけど、いつてみようか。チャチャ」

チャチャ「うん！今月ここでピックアップするのは『チヨコミミ』！」

ぼぼ介「チヨコミミは2004年から連載されて、あまり最近とは呼べないですが、これは序の口かもしれません。でも努力して旬なネタを扱っていいこうとも思います」

「チヨコミミ」

(りぼん2004年4月号〜連載中(但し2011年4月号頃〜同年12月号まで休載)

作：園田小波)

中学2年生の桜井ちよこ(以下チヨコ)と猫田ミミは互いに親友が。ミミはかなりのマイペースで甘えん坊。そんなミミの保護者役がチヨコといったところ。今日もチヨコとミミとゆかいな仲間たちが、イマドキの愉快的な学校生活を送ります。

チャチャ「こんな感じですよ！」

ぽぼ介「チヨコミミは本当に楽しいガリーギャグ満載の傑作ショートです。あと、ファッション要素も取り入れているので女の子にはピッタリの漫画かと思えます。それではそんなチヨコミミからゲストを呼びましょうかっ！」

チャチャ「はい！今月の最後のゲストは、チヨコミミより桜井ちよこさんと猫田ミミさんでえっす！」

ぽぷっ

チャチャ（6度目になると飽きてくるな、この展開…）

チヨコ「うわっ…吃驚した…」

ぽぼ介「ごめんねチヨコ…こんなクローゼットで…」

ミミ「ホントにダメだよこれ！」

ぽぼ介「ごめんなさい！」

ミミ「もっとスリルが出るように改造しなきゃ！！」

チヨコ「それツッコむところが違うと思うよ」

ぽぼ介（来月やる前に直しとこ…）

チャチャ「それでは参りましょー！まず最初は自己紹介と言いたい

ところですが…桜井さんにちょっと軽く宣伝をしてもらいましょうか」

チヨコ「はい！この小説の作者によるもう1つの連載に大規模な鬼ごっこゲーム『逃走中』がありますが、あたし桜井ちよこがプレイヤーの1人として出場しております。そちらの方も是非見て下さい！」

楓「あ、実は私も出場してます！」

ミミ「それあたしも出たかったのに〜！どうして出してくれないの〜!?!」

ぼぼ介「う〜ん…それは…ミミがマイペース過ぎて他のプレイヤーに知らずに迷惑を掛けちゃうと思ってる…」

聖香（何となく分かる気がする…）

ミミ「迷惑かけないよ！チヨコに電話するのも2分ずつから5分ずつに減らすから〜！」

しいね「十分に迷惑ですよ、それ…」

チャチャ「じゃあ改めて自己紹介どうぞ！」

チヨコ「桜井ちよこ・中学2年生です」

ミミ「猫田ミミ・永遠の中学2年生です！」

・人間キャラ

チヨコ「まずは…アンドー（安藤竜之介）！」

ぼぼ介「ミミはアンドリユーって呼んでるんだよね」

ミミ「うん」

チヨコ「小学生の時にイギリスに住んでいたという男の子なの」

ミミ「でも関西弁だよー」

さくら「関西弁！？そうなんだ…」

楓・ぼぼ介（今絶対ケロちゃんを連想したよね…）

ティナ「イギリス育ちで関西弁って…結構マルチな子かな？」

チヨコ「いや、マルチからは程遠く不器用です」

チヨコ「次はムムちゃん（桃山ムム）」

シャマ「ムム！？腹黒フェアリーだぁー！」

ぼぼ介（腹黒フェアリーって…ムルモでしょ…）

ミミ「確かに腹黒かもね、あれは。あたしの事執拗にいじめるし、あれはライバルだよ！」

聖香「あーなるほどー。ケンカするほど仲が良いんだよね」

ミミ「良くないっつー！」

実はムムは読者からのキャラ募集コーナーで生まれたキャラ。
ではあるもののチョコミミに欠かせない存在となった。

ミミ「それからタケちゃん（竹田正人）！」

さくら「タケちゃん…どんな人？」

チョコ「タケちゃんは…先生ですね…」

さくら「へ？」 目が点

チョコ「ミミとムムちゃんがそう呼んでるの」

・動物キャラ

ミミ「あたしが飼ってるワンコは、『シフォン』！オスでーす」

ぼぼ介「ねえミミ、知ってた？シフォンは坂本竜馬に憧れてるサムライハートたつぷりのワンコだって…」

ミミ「なにそれ？シフォンには可愛い服を着せるのが一番だよー？」

ぼぼ介（やっぱり知る由も無いかー。シフォンも大変だな）

チョコ「あたしが拾った野良猫は『ハックルベリー』です」

楓「とってもフワフワしてるのよね」

フワフワ（ティナ）「フワフワ〜！」

狼リーヤ「フワフワ〜！」

ぽぼ介「っていつの間に変身しとんねんリーヤ！」

パンプー「しかもフワフワまで調子いいなー…」

さくら「で、安藤くんが飼ってるひよこが『ピッチョ』だよね」

チョコ「うん。でもね…」

チャチャ「でも『？』」

チョコ「アンドーはピッチョを『飼ってる』って言うより『溺愛してる』んだよね…」

一同「で……溺愛………」

ビューウウウウウウウ……（吹雪の音）

凍てつく、風見の部屋……。

チャチャ「そんなチヨコミミは実は既にドラマ化されたんですよ」

チヨコ「はい！実は2007年秋にテレビ東京で半年間放送されました」

楓「りぼんでテレビドラマっていうのは今までにあっただけ？」

チャチャ「あつたよ！『お父さんは心配性』と『砂の城』、あと幾つか…」

さくら「あーなるほど」

チヨコ「ドラマとしては珍しいと思うんですけど、アニメも劇中で使われているんです」

ぽぼ介「確かにドラマって大体、堅苦しい感じって言うつとアレだけど…ほら、チヨコミミは実写なのにいるいるバラエティ番組みたいにエフェクトが入ってて（挿絵やテロップ等）、そこを考えると気軽に見れるニュータイプなドラマだと思うよ」

チヨコ「あとは、ドラマでは原作よりもバンド活動のシーンが多く出てくるんです」

チャチャ「オープニングとエンディング（2つ目）で歌ってるのよ」

ミミ「でねーマンガだとねー…チヨコは…オンチみたいだよー」

チヨコ「ちよつとミミミ！それは…」

リーヤ「ピ…ピンクボール!？」

チヨコ「だからソレどう言う意味よ~~~~~!!」
(そこまで音痴ではありません)

ぽぼ介「さて最後になりますが、チヨコミミの本誌連載は2004年から始まりましたが、2011年4月号頃から作者の園田先生がお休みに入られたのですよね」

楓「何しろファンの間ではかなり衝撃だったそうだけど…」

チヨコ「……はい。本誌で『つづく』とだけ記されて、翌月号になって突然連載が止まりましたね…」

(だと思いません。間違えていれば済みません)

ぽぼ介「でも、聞くところによると、休載した月からチヨコミミの今までのまとめ情報が載ったファンページが掲載されたそうだけど…」

ティナ「相当根強い人気よね。うらやましいな…」

チヨコ「はい。そんなチヨコミミですが、実は2011年12月1日に発売されましたりばんお正月超特大号で…復帰しました!」

楓「流石！良かったね、チヨコ!」

聖香「おめでとう！桜井さん」

ティナ「園田先生、無事に復帰されたのね」

ミミ「りぼんっ子のみんなー！戻って来たよー！」

チヨコ「これからも、チヨコミミをどうぞ宜しくお願いしますー！」

チャチャ「はいっ！と言う事で以上、チヨコミミでしたー！」

ぼぼ介「と言う訳でゲストの皆さん！記念すべき第1回『月刊！ぼぼ介的少女漫画パラダイス』に参加していただきありがとうございますっ！」

リーヤ「嬉しいのなんの、久々に最初の頃の設定で話せたからなー」

チャチャ「まあ、確かにね…」

聖香「サンタ修行も頑張りたいと思いますね」

楓「うん。今年も頑張ってね」

ミミ「聖香ちゃん、もっとぜんまいチヨコちよーだいっ！」

シヤマ「シヤマもっ！」

桜井ちよこ「かえる姫」わがまま言わない（言うでない）！」

ティナ「もーシャマつたら最後の最後までこうなんだからねー」

さくら「あはは…ホントにシャマちゃんって愉快よね」

ぼぼ介「それじゃあゲストのみんなはここで解散！みんな、良いお年を！」

こうして、ゲストメンバー9名はそれぞれの世界へと帰っていった…。

ぼぼ介「さて4人が…一気に静かになったね」

楓「今年も来たね…この季節が」

さくら「そうねー。何と言ってもクリスマスよね！」

チャチャ「クリスマスかー。でも余り普通のクリスマスを過ごした記憶が無い…」

楓「そうよね…特にチャチャなんかは…」

ぼぼ介「それもいいんじゃない？だって僕の場合は…基本的に家でパーティーするから」

チャチャ「たった1人で？」

ぼぼ介「違うわいっ！！ボクは自宅通いの大学生だ！！」

さくら「で、クリスマスが終わったら直ぐに年明けよね」

ぼぼ介「そうなんだよね…年末の悩みつてのは掃除もあるけど、やっぱり年賀状のイラストかな。前は軽くチャチャッとイラストは思いついたけど」

(注：普段風見はイラストを自分で描きません。と言うかヘタです)

さくら「どんなイラスト？」

ぼぼ介「それは…訊かないで」

(ここで言うと正体バレるかもしれないので…)

楓「と言うより風見くんはこんなことしてて大丈夫なの？今月から就職活動が本格的に始まって…就職氷河期が続いてるのにその上東北地方で本当に悲しい天災があつて…それに影響されて就活スタートも2ヶ月遅れてるのよ？そんな呑気ににじファンさんに居座つて大丈夫なの？」

グサツ！

ぼぼ介「グエツ！！！」 矢が数本刺さる

さくら「そう言えば『こんなドジで勘が悪くて自分がやりたい事も無くいつもの日常を続けていればそれでシアワセの人間になんか仕事は要らない』って言って僻んでた様な気が…」

グサグサツ！

ぼぼ介「ブフツ！！！」 更に矢が刺さる

チャチャ「へ〜弱虫なんだ〜風見ぼぼ介って」

グサグサグサグサグサ……

ぼぼ介「ぎゃあああああああああ……!!」

バタツ

さくら「あ……倒れた……」

楓「風見くんの為を思って言ったつもりなんだけどな……」

チャチャ「あーあ……これだからこの低能作者は……」

楓「チャチャ？ちょっと言い過ぎよー？」 目が発光・黒いオーラが出ている

チャチャ「いや！何でもありません!!」

楓「本来はここで終わりの『月刊！ぼぼ介的少女漫画パラダイス』なんです、今回はスタート記念と言う事もありまして特別企画を設けました!」

さくら「と言う訳で、もうしばらくお付き合いくださいな」

楓「何をするのかと言いますと、ケーキ作りです!」

さくら「少し早目のクリスマスパーティーということで、ケーキを作りまーす！」

チャチャ「いや、これって本来の目的は某大物逃走中作家さんに差し入れする為でしょ？」

楓「……………確かにそれも兼ねてるんだけど…………チャチャって何か黒くなってる？」

チャチャ「黒いつて何が？あたしは赤いよ？」

楓（とぼけてるのか、そうでないのか…）

さくら「でも、風見くんどうしよう…………起きないし…………」

ぽぼ介「僕がどーかした？」

楓・チャチャ「あ、復活した」

ぽぼ介「ケーキ作るんでしょ？じゃあ誰もいないし、みんなでやりますか！」

くキッチンスタジオ

（クローゼットから別の次元に飛びました）

さくら「ケーキ作りと言うことで、今回は助っ人を呼びました！その助っ人はこちら！」

知世「はじめまして。わたくし大道寺知世ですわ」

楓「成程ね。知世ちゃんなら料理が得意だから力強い助っ人よね」

ぽぼ介「ちなみに知世ちゃんは来月か再来月にもう一度登場してもらうので、よろしく!」

知世「でも困りましたわ…」

チャチャ「な…何が?」

知世「わたくしが作り方をお教えすると、さくらちゃんの勇姿をビデオカメラに収められませんか」

さくら「あ…あはははは…」

ぽぼ介「よし!じゃあここはチャチャに撮ってもらおうか」

さくら(別にいいのに)

チャチャ「それはイヤっ!」

ぽぼ介「どして?」

チャチャ「あたしも作りたいもん!」

楓(でも何か嫌な予感が…)

ぽぼ介(チャチャにやらせると…!)

チャチャ「お願い〜！させて〜！」

知世「チャチャさんがやりたいとおっしゃってますけど……」

ぼぼ介「う〜ん……………もういい！好きにして！」

チャチャ「やった〜！ケーキ作りだ〜！！！」

しかし、これが悲劇の種となる……

ぼぼ介「と言うわけで、僕・チャチャ・楓ちゃん・さくらちゃんの全員で1ホールずつ作ります。ビデオ撮影は『チヨコミミ』の三上くんが担当しています」

三上（以下ミカちゃん）「はじめまして、三上功明です」

ぼぼ介「ごめんね三上くん…命の覚悟は大丈夫？僕もコワイけど…」

ミカちゃん「うん…でもこれっていくら何でも冗談でしょ？」

ぼぼ介「いや…僕もよく分からないから分からないけど、万が一の事があつたら謝礼金払うからさ」

楓（万が一って…！やっぱり嫌な予感がする〜！）

さくら・チャチャ「……………？」

そんなこんなで、調理が始まった。

知世「まずは卵・グラニュー糖を『ゆせん』しながらかき混ぜてください」

さくら「ゆせんはこうだったかな」

さくらは第3期EDでケーキを作っていたため、特に問題は無さそうだ。

(レシピはところどころ省略してあります)

知世「はい、では次はヘラで切るようにして混ぜてください」

楓「これがまた大変なのよね……」

楓もミルモ初期OPや劇中でチョコケーキを作った経験があるため、問題はない様だ。

知世「では、それをオープンで焼いてください」

ぽぼ介「こー言うのはあんまり経験無いし、レシピブックを見よう見まねじゃなきゃ……」

風見は知世の説明も聞く一方で、上手く作ろうとレシピブックと睨めっこしていた。

しかし、この手順はオープンに入れて待つだけだが…？

そんな中、この赤ずきんは…

チャチャ「とりあえずオーブンで加熱したし、焼くってこれでいいのかな…いや、まだよ…いでよ！うさぎさん！」

POM!

何と、チャチャはアニメ6話のようなウサギ（と言うより寧ろ怪物。耳が長いだけ）を召喚したではないか。（実物よりかなり小さめ）

そして…！

チャチャ「焼いちゃえー！」

ずばああああああん！ 火炎放射

ケーキは真っ黒コゲになった…

チャチャ「ケーキ焼けたー！」

焼きすぎだ…

ぼぼ介「ちよつと待ってチャチャ！これ以上やられると…」

さくら「チャチャちゃん、やめて〜！〜！」

楓「ちよつと何してんによチャチャ~~~~!!」

スポンジ作りに続き、クリーム作りでも悲惨な状況が続いたのは言う迄も無かった…。

(どうなったかは皆さんの想像にお任せします)

そして、

調理終了…。

ぽぼ介「と言う訳で、完成〜!」

楓「あー…大変だったよねー!」

さくらと楓のケーキは流石経験者というだけあり、見た感じ上出来である。

風見のケーキは見た目はそんなに悪くないが、彼曰くスポンジが少しパサパサしているそうだ。

そして、問題の最終兵器…

ぽぼ介「チャチャ、悪いこと言わないからそれ土に埋めようか」

チャチャ「嫌だ〜!それは絶対ヤダ!折角作ったのに〜!」

奇跡的にクリームの色は白を保ったが、中身が悲惨なことになっている。

楓「でもこれはちょっと食べるのは勇気がいるんじゃない…」

とそこへ、1匹のネズミが通りかかった。

ぼぼ介「う〜ん、悪いけど君にはモルモットになってもらうよ」

チャチャのケーキのひとかけらを、その小動物にあげた。

パクッ……

バタッ

ゲフツガホツゴホツ……

楓・さくら「いやあああああああ！吐いてる……………」

チャチャ「ガーン……………」

ネズミが、吐いた……

この行き場のない最終兵器の行方をどうするかと考えていたレギユラー一同に、この男はある提案を持ちかけた。

ミカちゃん「ねえねえ、そのケーキってあの某大物逃走中作家さんの逃走中のプレイヤーに差し入れしに行くんだよね？じゃあ赤ずきんちゃんの作ったケーキは…自首をした人とか、他の人の足を引つ張った人にあげるってのはどうかな？」

ぼぼ介「あ！それいいかも！」

三上の提案で、チャチャの作ったケーキは特定の逃走者に、楓とさくらの作ったケーキはそれ以外の逃走者に差し入れることに決定した。

風見のケーキは、レギュラー陣＋お助け組で食べた。

知世「このスポンジは…改善の余地がありますわね」

ぼぼ介「やっぱりそうか…でも僕にはその術がまだ分からない」

チャチャ「ここまでパサパサしてるとちよつとねー」

ぼぼ介「人の事言えないっしょ！？あとミカちゃん、これはちよつと迷惑かけたのもあるから謝礼金として貰っていいよ。知世ちゃんもありがとう。大道寺家の財産に比べたら全然無いけど持ってって」

ミカちゃん「あ…ありがとう」

知世「恐れ入りますわ」

楓「さて…少女漫画パラダイスは今月スタートですけど今月は2011年最後の月になります。読んで下さった皆さん、ありがとうございます」

さくら「2回目にして新年号になりますが、2012年もこの4人で頑張っていきたいと思います！」

チャチャ「これからも元気いっぱいみんなに少女漫画ネタを届けていきまーす！」

ぽぼ介「この小説では2011年最初で最後の顔出しになります、年内は僕のもう1つの連載・逃走中でお楽しみ頂ければと思います」

楓・チャチャ「そっちの連載もよろしくお願いします！」

ぽぼ介「と言う訳で一足早いですが、皆さん良いお年を！」

楓・さくら・チャチャ「良いお年を！」

第1回・2011年12月号(パート3)「チヨコミミ」&おまけ(後書き)

次回は来年の1月10日となります!

それまでは逃走中を出来る限り投稿します。

第2回・2012年1月号(パート1)「ミルモでポン！」(前書き)

遅めではありますが明けましておめでとつございませう。

では、2012年初回の少女漫画パラダイスをどうぞ！

あと、どなたでも感想は書けますよ。

但し言うまでも無く荒らしはお断りです。

第2回・2012年1月号(パート1)「ミルモでポン！」

ここは、とある車通りの少ない郊外に建てられた、一軒家。

これは、そこに住んでいるこの小説の作者・風見ぼぼ介の…

ぼぼ介「そろそろかな」

カチャ……！（クローゼットが開く音）

異なる世界に繋がる彼の部屋のクローゼットによって生まれたバラエティトーク。

徐に3人の女子が、そのクローゼットの中から歩いて出てきた。

楓「明けましておめでとう御座います！」

さくら「今年も宜しくお願いします！」

チャチャ「お願いしまーす！」

ぼぼ介「明けましておめでとう！でも先月あれから頑張つてクローゼットを直せて良かったな。楓ちゃんにさくらちゃん、その着物お似合いだよ！」

楓が着ているのは、緑色を基調とした着物。

ところどころに白色の梅の花が見えるデザインなのだ。

さくらも着物を着ているが、名が示す通り桜色（笑？）。

そして白地の桜柄。

ちなみに風見は、藍色の着物を着ている。
地味だ。

ぽぼ介「ほつといて！」

が、新年にそぐわない恰好をしている者が約一名…

チャチャ「…へ？みんな何？その冷たい視線は…」

楓「否、何ってこつちが聞きたいよ…！」

さくら「何で…：サンタさんの恰好してるの？」

何故なのか。新年になって何故その恰好なのか。

チャチャ「いやいや、風見くんにお正月プレゼントをしたくてね。」

ぽぼ介「あのね…：だからって意味不明だよ？1月になってその服装は」

チャチャ「まあまあ」

楓「無視だ…！」

ぽぼ介「で、何プレゼントしてくれるの？」

チャチャ「それはね…：コレ！」

風見、チャチャが手渡した小包を開封した。果たして中身は…

ぽぼ介「これって…エントリーシート!?!」

注) エントリーシートとは、就職活動する際に必要な紙の事。これで個人をアピールする必要がある、同シートの内容がぱつと来なければ面接を待たずに落とされることもしばしば。

チャチャ「いいでしょー。あたしって親切う!」

ぽぼ介「あのね、嬉しくない訳じゃないけど………

今僕を現実に連れ戻すなーーーーー!!!!!!」

ぽぼ介「改めまして読者の皆さん、明けましておめでとございませす! 第2回『月刊! ぽぼ介的少女漫画パラダイス』です。司会を務めますのは僕・風見ぽぼ介と、」

楓「南楓と、」

さくら「木之本桜と、」

チャチャ「チャチャです!」

ぽぼ介「何でかな…月刊なのにペースについていくのが精一杯のよ
うな気がするんだよね……」

楓「風見くん、それは『ノロマ』って言うのよ」

ぽぼ介「……………」

さくら「ほえ…ずばっと斬っちゃったね」

チャチャ「まずネタ出しがロクに出来ないって愚痴たたいてさー」

ぽぼ介「そつだよ！これを執筆してる最中が正にそつなんだよ！」

楓「だからと言ってこんな愚痴でトークを埋めるのはだめよ」

ぽぼ介「…はい。でも、正直に言いますと、もうあまりにじファンには投稿出来なくなるかもしれません。就職に対する親のプレッシャーが大きいので…」

さくら「まあ、登場人物が風見くとあたしと楓さんとチャチャちゃんだから想像しにくいけど、風見くんはもう既にお酒を飲んでも検挙されない年齢なんだっけ…」

楓「2ヶ月目で、しかも新年から進行の危機かな…？」

ぽぼ介「勿論最善は尽くそうと思います…っていつかチャチャ！いい加減着替えてよ！」

チャチャ「えー？普段が赤ずきんだから赤い服装したかったのにー」

ぽぼ介「ダメだったらダメ！！」

チャチャ「はい…」

チャチャは小声でそうこぼすと、風見の部屋のドアまでのっそのつそと歩いた。

彼女はドアノブに手を掛けるなり、

チャチャ「着替えるから見たら絶交だよ！」

ぼぼ介「誰が見るかっ！」

バタンー！！

ぼぼ介「そうだね…じゃあお正月に必ずと言っていいほど食べる」と勝手に思っている（お餅の話をしようか）」

楓「あゝ確かに食べるね！」

ぼぼ介「これはうちの家族内だけで、餅につけるのは大体きな粉砂糖か砂糖醤油になるね」

楓「へ〜砂糖醤油か…何か香ばしい感じがするわね」

さくら「そう言えば、風見くんはチーズ餅とかカレー餅なんてのも食べてたっけ？」

ぼぼ介「そうだね。その名の通り餅の中にチーズやカレーが入った餅だね。最近食べたかなー」

餅の話題で盛り上がっていると、ドアの向こうから…

チャチャ「あたしの分も残しといてよー！」

ぽぼ介「食べ物の話だけで食事してる事に結び付く短絡思考は捨てんかーっ!!」

さくら「そつだよ！そんなこと言われたら食べなくなっちゃおうよー」

楓（まあ確かにね…）

ぽぼ介「あー…餅の話してたら チコチキンが食べなくなった」

楓「ど、どうして某コンビニのフライヤー商品になるのさ…最早餅じゃないし…」

しかも期間限定モノだ…。

ぽぼ介「はい！今回は2回目にして大きな企画をやってしまいまーす！」

チャチャ「大きな企画？逆立ちして町内一周するとか？」

（結局頭巾をとって赤色の着物に着替えた）

ぽぼ介「どーしてそうなるんだ…そもそも逆立ちが出来ないしそれは無理。しようとも思わないし」

楓「2回目にして他の作者さんの小説からのゲストを迎えることになっただよね」

さくら「それに今回は少女漫画とは別のジャンルのゲストが来るって聞いたけど…！」

ぽぼ介「そうだけど…未知のジャンルだと予習がたいっへんだよー！」

チャチャ「そうよねー知らず知らずのうちにキャラ崩壊なんて怖いものねー」

ぽぼ介「うん…。勿論崩壊はしない様に心がけておりますが、もし崩壊した場合はすみません」

楓「第2回で早々に事件にならない事を祈るけど…」

ぽぼ介「うん。冗談抜きに（笑（えません））。そのゲストの皆さんは後ほどの登場となります。なお、今回は読み切りと連載中作品のパートを休止にして、過去の連載も1つに減らしました」

ぽぼ介「前置きはここまでにしまして、『知ってる人は知っている！？こんな連載モノ』！」

1. 知ってる人は知っている！？こんな連載モノ

チャチャ「1つて言うてるけど、今月はこのパートでオシマイなのよね」

ぽぼ介「うん。しかも今回は1作品に削っております。今回このパートを受け持つプレゼンターは、南楓ちゃん！」

楓「はい！では早速紹介に移りたいと思います。今回紹介するのは私の登場作品『ミルモでポン！』」

「ミルモでポン！」

（ちやお2001年9月号〜2006年1月号）

作：篠塚ひろむ）

私、南楓！同じクラスの結木くに片想いしている中学1年生（読み切り時）の女の子なの。ある日旅行帰りのママが私にくれたおみやげ（原作。アニメでは楓がミモモシヨップで購入させられた）は、なんと恋のおまじないが出来るマグカップ！それを試しに使ってみたところ、なんと恋の妖精ミルモが現れて…！

さくら「はにゃーん、恋の妖精か…結構ロマンチックな響きがあるよねー」

楓「確かに恋の妖精って言えばそういう響きはあると思うけど、ミルモには皆無よ」

と楓は愚痴った。しかしその一言から間髪を入れずに…！

?????1「皆無で悪かったな…！」

楓「え…この声は若しかして…（冷汗）」

????2「まあまあミルモ様、本当の事じゃありませんか」

????3「フオローになって無いぞ、リルム…」

楓「みんな、いつの間にクローゼットの向こう側にいたの…（汗）」

ぼぼ介「いたみたいだね」

さくら「あはははは…」

カチャ

クローゼットが開き、手のひらにも乗る様な小人2人と人間の男子1人が入場した。

楓「はい。と言う訳で本日のゲストは『ミルモでポン！』よりミルモとリルムちゃん、そして結木撰くんです！」

ミルモ「何フツーに紹介してんだよ！プリチーなオレ様に向かって失言したクセにっ！」

チャチャ（妖精なのに生意気だ…）

ぼぼ介「はいはい。わがまま王子はほっという作者・篠塚ひろむ先生の紹介です」

ミルモ「ってオイ…！」

〈篠塚ひろむプロフィール〉

1999年 ちゃおデラックス夏の増刊号にデビュー作「卓球少女」を掲載。

2000年 本誌3カ月連載を2度経験（「恋はオン エア！」、「恋はゲームで！」）。

2001年 同年3月号本誌に読み切り「ミルモでポン！」を掲載。

その後本誌に3カ月間「ちえんじ！」を連載し、「ミルモ」が本誌連載としてスタート。

2002年 同年4月から3年半の間「ミルモ」がアニメ放映された。

2005年 同年末までミルモの連載が続いた。

2006年 「恋するプリン！」の連載がスタート。

2008年 「ちび デビ！」の連載がスタート。

同作品は2011年10月にアニメ化され現在（2012年1月の段階で）テレビ放映中。

篠塚作品としては2作目のアニメ化である。

ぼぼ介「とまあざつとこんな感じですよ」

チャチャ「アニメ化が2回も！？コレって少女漫画としては珍しいでしょ？」

楓「うん、でもさくらちゃんの親（CLAMP先生方）はもっと多いんじゃない？」

リルム「いくつですかね？」

ぼぼ介「レイアース、CCさくら、ツバサクロニクル、こぼと。…
などなど！」

結木「オイオイ、などなどって…」

ぼぼ介「否、確か10を超えた筈だから、列挙し過ぎるのもアレだ
と思ってさ」

ミルモ「でもなー、このジャンルで3年以上続いたアニメってのも
スゴイだろー？」

ぼぼ介「それは認めるね。僕の覚えてる限りではミルモ以外はセー
ラームーンとちびまる子ちゃん、それぐらいだった筈」

(勿論コミカライズ作品は除外。それら以外に若しあれば指摘の方
お願いします)

楓「兎に角10年以上現役を続けていらっしやる私たちの親です」

ぼぼ介「はい！と言う訳で続いては主な登場人物紹介！」

〈妖精〉

楓「1人目は、我らが主人公・ミルモ！」

ミルモ「よお！」

わせ息を荒げる…

リルム「…ミルモ様の…」

さくら「ほえ？」

リルム「ミルモ様の…」

チャチャ「ええ！？ちょっと!?!」

リルム「バカーーーーー!!!」

ボコーーーーーン!

彼女のパンチが、わがまま王子の横顔に命中…。

リルム「バカバカバカバカバカ…」

ボコボコボコボコ…

それに続き、パンチの乱れ撃ち…。無論例外なくヒットしている。

リルム「私のどこが、いけないんですのーーーー!!!」

ブンッ!

ズバーーーーーン!!!

ミルモ「……………」 壁に投げられ、成す術も無く激突。気絶中

ぼぼ介「あーもう…僕の部屋で襲撃フラグ立てるなよ…」

楓「私はある程度見慣れたけどね…リルムちゃんは怒るとこの様に凶暴化してしまいます。皆さんもリルムちゃんを怒らせないように注意しましょう」

リルム「ハア、ハア…怒ったらお腹がすきましたわ…結木様、アレはありますか？」

結木「あるけど…」

アレとは？

リルム「はむっ！やっぱり私はシュークリームが大好きです〜」

さくら「シュークリーム食べてるリルムちゃんも可愛いねー！」

チャチャ（イヤ、美しい花にはトゲがあるみたいなものだよ…）

ぼぼ介「駆け足でいってみようか！3人目はヤシチ！」

楓「超スケベな妖精忍者です。魔法で風を起こしては女子のパンツを覗き見したり、パートナーの日高さんの部屋のタンスから勝手にパンツを持ち出したりする超スケベ野郎です。因みに好物はかりんとうです」

さくら「だからここにいないんだ…ホッ…」

ミルモ「ろくじゃねー奴だな、あれは」

ぽぼ介「悪いけど、ろくな妖精はそんなにいない様に思う」

ミルモ「あゝー！？」

ぽぼ介「個人的にはアンナちゃんぐらいかな」

楓「4人目はミルモちゃん！超可愛いミルモの弟です」

ミルモ「おいおい…楓はまだ騙されてるのか？」

ぽぼ介（確かにね。ホントは腹黒なんだけど…）

楓「好物はマシユマロ。得意技はしょっかくビーム！」

リルム「そう言えば、目からビームを出すネコさんっぽい女の子に、耳からビームを出すウサギさんもいませんでした？」

結木「別のアニメになってるぞ、それ…」

（人間）

さくら「で、次は人間キャラクターの紹介です！まずは南楓ちゃん！」

楓「はい！南楓…」

ミルモ「39歳」

楓「ちよつとー！？何でアラフォーのいとうさんみたいな事になる訳！！？」

ぼぼ介「まあまあ…この数字はあとで登場して頂くゲストさんに大きく意味があるから、これは許してやって欲しいんだけど…」

ミルモ「許してやったらどーや」

楓「ミルモー？自分が悪い曲に何そのよ もと新喜劇の言い回しはそれじゃ許せるものも許せないわよー？さくらちゃん、悪いけどあのカードでミルモを黙らせてくれない？」

さくら「あ、うん…」

楓が言う、あのカードとは…？

さくらは『鍵』を取り出し、封印の杖に変化させた。そして、『あのカード』を使う…！

さくら「ヴォイス！」

数十秒後…

ミルモ「……………！」

ミルモは口を動かすが、声がまるで出ない。口から出し入れする空気の音が、虚しく響く……。

楓「ミルモ、少しは反省しなさい！」

さくら「あはははは……じゃあ楓さん、改めて自己紹介をどうぞ」

楓「はい！では改めまして、南楓です。髪の毛は両側面でまとめてツインテールにしています。元気が取り柄で、好きな食べ物はクリームシチューです」

ぼぼ介「因みに結木くんの好物は？」

結木「鯖の味噌煮」

チャチャ「両極端ね……」

楓「続いては結木くん！」

結木「結木撰です。文学作品を読むのが好きです。あと運動にも自信があります」

ぼぼ介「この人本当にイケメンの鏡です（汗）。運動が得意ってポイント高いっしょ」

リルム「風見様は？」

ぽぼ介「運動は全般に渡って余りいいところないです（汗）。唯一得意なのが長距離走かな」

チャチャ「でも今時文学が好きっていうのは珍しいんじゃない？（文学好きの方にはすみません）」

ぽぼ介「そうだね…あと結木くん、活字派なのに今回僕のト書きモノに参加してくれて本当にありがとうございます。ト書きって状況表現が少なくても成立するから従来の小説に喧嘩売ったところがあるかもだし…実際これ小説じゃなくって会話モノだって自分でも思ってるから」

結木「まあ確かにそうだけど、ホビーでやる分には別に台本でも活字でもどちらでもいいと思う。唯、本気で小説家として売りたいなら台本書きは決して勧めないな。表現することは小説の醍醐味だし。君（風見）は売りたいと思う？」

その問いに対し、風見は間髪を入れずに、

ぽぼ介「1秒たりとも思ってた事はありません！！」

結木「良かった…」 安堵のため息をつく

ぽぼ介「それ以前にト書きを曲げる気すらありません。マンガ中毒の哀れな私ですみません」

結木「まあちゃんとした小説を書けとは言わないけど文学も少しは読んだ方が良いんじゃないかな？日本語を再発見する手掛かりにもなると思うし」

ぽぼ介「ラジャー。何年後になるか分からないけど」

さくら「そんなに…?」

ぽぼ介「最後に凶暴な人…否、生命体を紹介します」

結木「おいおい…」

楓「日高安純さん。私の恋路を邪魔するライバルなの」

ぽぼ介「余りにも凶暴過ぎて、呼べませんでした」

さくら「風見くんは怪獣みたいだって言ってたけど…」

楓「まあ、間違いじゃないけど…」

リルム「ホントに凶暴ですわ!」

結木（人の事言えるのか…?）

ぽぼ介「で、次に原作とアニメ版での妖精楓の違いについてです」

チャチャ「妖精楓?」

楓「うん。ミルモの魔法で私も妖精になったりするのよ。ミルモー」

ミルモ「やだ」 元に戻った

楓「まだ何も言っていないのに…」

ぼぼ介「協力してくれたら後でくもつちよやるぞ」

注）くもつちよとは、チョコ味の綿菓子である。『ミルモ』劇中に登場し、市販もされた。

ミルモ「ホントかあ!？」 目を輝かせている

リルム「ミルモ様、『妖精にな〜る』です」 ミルモにそれを手渡す

ミルモ「準備いいな…じゃあいくぞ!」

そう言つと、ワガママ王子は妖精にな〜る（粉末）を楓に向かって撒き散らした。

楓「コホツ…コホツ…」

そして、ミルモは両手にマラカスを出現させた。

ミルモ「ミル!ミル!ミル!ミルモでポン!」

ポワン…!

楓はミルモの魔法にかかり、ミルモと同じくらいの大きさの妖精に変身した。

妖精とは言つが、この形態では飛べない。

さくら「うわ〜！楓さんちっちゃくて可愛い〜！」

チャチャ「2等身で、ほっぺたにKマークがついてるのね」

ぼぼ介「これは妖精楓って言うよりプチ楓っていうのかな、個人的には。因みにこれは原作の妖精姿で、アニメ版では更に可愛くなります」

ただいま変身中（実はアニメ版は当時見ていた訳ではないので変身シーンは割愛）

チャチャ「何ソレ!?!」

ぼぼ介「まあ、都合の悪い事はほっというて」

ミルモ「放り投げすぎだろ!?!」

ぼぼ介「これがアニメ版の妖精楓です！」

その姿は、ピンクを基調としたコスチュームで4等身。背中には半透明の小さな羽を生やしており、空を飛ぶことが出来る。

チャチャ「うわ〜ホントだ〜〜！これ萌えるよね!?!」

ぼぼ介「僕としてはこっちの妖精バージョンが好きです（ひろむ先生すみません…）」

リルム「因みに楓様だけで変身する事も出来るんですよね」

楓「うん。このマイクで私も魔法を使えるの（アニメ版のみ）」

ミルモ「今思ってたけど、妖精楓は『はいてない妖精』っぽいかな」

楓「それどういう意味ー?!?!?」

ぼぼ介「最後に、妖精の楽器の種類を挙げていきます」

ミルモ…マラカス

リルム…タンバリン

ヤシチ…トライアングル

ムルモ…小太鼓

パピイ…鈴

サスケ…鉄琴

ハンゾー…木琴

アンナ…エレキギター

などなど…

チャチャ「ヤシチの楽器は正にラブコメを象徴してるよね」

ぼぼ介「まあ確かにね…」

結木「リルムはいつも力んでるんだよね…タンバリンがもつかどうか…」

リルム「あ…それは…」

楓「で、サスケとハンゾーは元はアニメオリキャラだったこともあったのかな、楽器はアニメだけの登場ね」

ぼぼ介「そうだね。あの2人はアニメから原作に逆輸入されたんだよね」

さくら「でも、アンナちゃんの楽器、どう言う事？」

楓「どう言う事って言われても…」
「どう言う事としか…」

結木「ギャップがあり過ぎるんだよね」

ぼぼ介「うん。勉強熱心な子だからピアノ（別の妖精・インチョが使っている）とかだと思ったけど、敢えてコレですか。ギャップを狙ったのかな？」

チャチャ「いずれにしろ、意外過ぎる…」

楓「果たして私は結木くと両想いになれるのか？それとも結木くんを日高さんに奪われてしまうのか？その結末は単行本のミルモでポン！（全12巻）を是非読んでチェックして下さい！あとアニメのDVDも発売中なので余力のある方はそちらも是非どうぞ。以上、ミルモでポンでした！」

<休憩タイム>

ミルモ「くもつちようめ〜」

楓「やっぱりミルモにはくもつちよだよね。でもどこで手に入れたの？もう風見くんの世界では売って無い筈だけど…」

ぽぼ介「綿菓子メーカーを探してそれで作った」

楓「あ、そっか。くもつちよつて綿菓子だもんね」

チャチャ「くもつちよくらいあたしが魔法でだしたのに」

ぽぼ介「それは絶対にダメ！第一僕の家を破壊しかけたでしょ」

ぽぼ介「と言う訳で！新年特大とまではいきませんが今月号はスペシャル企画としましてゲストをお迎えしましたー！！」

楓「作者の風見くんも初めての領域に突入！？2回目にして少女漫画の枠を超えた共演です」

チャチャ「ダメ作者による崩壊劇のはじまりはじま…」すぱーん！！

ぽぼ介「崩壊させる気は更々無い！！」手にハリセン

さくら「…縁起でもないことだから言わない方がいいよ、チャチャちゃん」

ぼぼ介「うん。気は無いとは言いますが、万が一崩壊したらすみません。では、ゲストの皆さん、どうぞ…」

ガラガラドシャーン！！

チャチャ「へ！？直したんじゃないの！？」

さくら「あれあれ！？」

ぼぼ介「うーん…若しかしてあまりにも人数が多過ぎるとこっぴなってしまうのかな…」

楓（あ、サジ投げた…？）

その第2部のゲスト総数は17名！どんなラインナップなのかは次話をチェック！！

第2回・2012年1月号(パート1)「ミルモでボン！」(後書き)

と言う訳でパート2へ続く！

自分を含め計24名ものキャラを扱いきれるのか、ちよっぴり不安
(汗)

さて、まだ3パートが残っておりますが実はまだ全て完成出来ておりません。

僕の周りの作者さんが立て続けに退会していった、正直モチベーションが落ちているのです…。

しかも今回退会された作者さんは訳アリで…

拳句の果てには今朝が1限目スタート(爆)

出来ている分までアップしていきますね。

第2回・2012年1月号（パート2）ぽぽ介初の合作企画！コラボwith

という訳でいよいよ自身初のにじファン内コラボです！

あらかじめお断りしておきますが、パート2内での一部のシーンは
たかミクさんの許可を得て掲載しています。

ぽぼ介「（崩壊させる）気は無いとは言いますが、万が一崩壊したらすみません。では、ゲストの皆さん、どうぞ…」

ガラガラドシャーン！！

風見が直した筈のクローゼットから、大きな音と共に現れた十数名のゲスト。

放り投げられたように飛び出してきたため、あるキャラは別のキャラに下敷きになっていたりもした。特にそのキャラの顔の赤さは異常だった…。

チャチャ「へ！？クローゼット直したんじゃないの！？あたしたちの時はどーもなかったけど…」

さくら「あれあれ！？」

ぽぼ介「うーん…若しかしてあまりにも人数が多過ぎるところになってしまうのかな…」

楓（あ、サジ投げた…？）

チャチャ「何人？」

ぽぼ介「プチキャラ5名を入れてざっと17名だね」

さくら「多いとは聞いてたけどね…」

で、その『放り投げられた』ゲスト達は…

ルナ「あたた…こんな登場の仕方だったなんて聞いてないよ」

アルル「ボクも聞いてないよ」

フェイト「何で2度もこう体を張らなきゃいけないの…？」

あむ「え？2度？」

未海「そう言えばフェイトさん達そう仰っていたような気がしますわ…」

ともみ「うん。前回（agcm会話205号）コラボした時もこんなだったけど…いたた…」

たかくん39「俺達って不憫wwガクッ」

たかミクさん、また倒れる…

ミク「イヤ〜〜たかミクがまた死んだああああ〜〜！」

梓「死んだって…結局生きてたよ、あの時は…」

結木「否、見たところ息はしてるから気絶してるだけじゃないか…？」

チャチャ「よーしっ！じゃあ、あたしの魔法で起こし…」

が…

たかくん39「願い下げだああああ！」

ミク「良かった〜！生きてたっ」

楓「いやいやいやいや…これくらいじゃ死なないと思うけど…」

確かに、チャチャの魔法は何が起こるか分からない。故に気絶状態のたかミクさんの耳にもはつきりと届いたのだ。

ミルモ「心配ねーよ！コメディーだと基本的には何されても殺られることはねーからな」

ロコちゃん「まあ、そう言えばそうだけどね…」

ぼぼ介「うーん、じゃあそんなこんなで特別ゲストコーナーに参りましょう！第1部ゲストのミルモとリルムちゃん、そして活字好きの結木くんも、僕の拙いト書きモノにもう暫くお付き合い下さい！」

チャチャ「って言うか、結局あたしも不憫じゃん。折角魔法で起こしてあげようと思ったのに…」

パタリロ「皆から信用されていないなら当然だろう」

ぼぼ介「とまあ色々ありますが、たかミクさんとはこれが2度目の共演ですね」

(1度目に関してはたかミクさんのブログ「たかくんagcm会話」の第205号に掲載)

たかくん39「そうですね。でもぽぼ介さんの会話が拙かったら俺の会話は一体orz」

ぽぼ介「いやいやいや…落ち込まないで下さい！僕だって色んな意味で勉強中ですよ！どうしたらト書きなりにキャラ特有の個性を引きだせるかとか…まだそこら辺のことが全然分かっていないのにこの大人数のゲストを呼んでるんで、大人数に扱い慣れてるたかミクさんにはまだ及びませんよ！」

楓(結局ト書きは貫くんだ…)

さくら(でもト書きじゃなかったら会話っぽくならないから仕方ないのかもしれないけど…)

が、風見の励ましに水をさすかのように、この見習い魔女が先陣を切って…

まじよ子「でもたかミクは本当に大人数に慣れてるワケ？」

たかくん39「ちよっ…何だよ一体！」

ハム太郎「月刊で不遇なキャラよりもかげのうすいヒトもいるのだ」

更に…

ロコちゃん「あの…中途半端に私達を愛していたら嫌われるかもしれないよ？出すなら出して、出さないなら一切出さないできっぱり

「

ロコちゃんこと春名ヒロコが主に、登場人物の多い小説のごもつともなウィークポイントをやや控えめではあるが述べる。しかしたかみくさんは彼女が全て言い終わる前に拳に力が入り…

たかくん39「お前ら主に向かってIMASARA何を言うんじや
~~~~~!!」

ロコちゃん「みんな逃げるよっ！」 咄嗟に近くにいたハム太郎を  
手に抱え、肩にのせる

主と反逆者達(?)の、追いかけてこが始まった…。

楓「うーん…確かに登場人物が多いとこんなこともありがちなんだ  
けど…」 追いかけてこを見物

たかみくさん、色々とすみません。お許しを…。

数十分後…

ぽぼ介「……………という訳でお一人ずつお名前をお願いします」

たかくん39「はいっ 『たかくんagcm会話』より俺・たかく  
ん39と、」

ミク「初音ミクと、」

梓「中野梓と、」

フェイト「フェイト・T・ハラウンと、  
ともみ」ともみと、

ルナ「竜堂ルナと、」

あむ「日奈森あむと、」

未海「北神未海と、」

パタリロ「パタリロ・ド・マリネール8世と、」

アルル「アルル・ナジャと、」

まじよ子「まじよ子と、」

ハム太郎「ハム太郎と、」

ロコちゃん「春名ヒロコです！以上13…」

しかし、偶々だがまたもや彼女が全て言い終わる前に…

???1「ちよつと待ったあゝ！」

???2「ボク達もいるよ！」

???3「忘れないで欲しいのですう！」

???4「えへっ」

四人のミルモ・リルムより少し大きい小人なキャラがそれぞれに  
そう言いながら、たかミクさん達の方にどこからともなく空中飛行  
してきたのだ。忘れられている事に対して多少しかめっ面になって  
はいるが。

その四人とは…

あむ「あんたたち…何でここに!?!」

たかくん39「ラン！ミキ！スウ！んでもってダイヤ！なんで後か

らWWW」

ぽぼ介「一応僕のリクエストで呼びましたよ。ちょっと唐突だったんで後からの登場だったんでしょ」

知ってる人は知っていると思うが、念のために紹介する。

アニメ『しゅごキャラ!』に登場したあむのしゅごキャラ・ラン、ミキ、スウ、ダイヤの4人だ。

どうやら風見は同作品の『スピノフ』を語りたいが為にこの4人も呼んだらしいが…

ぽぼ介「という訳で、たかミクさん達とのコラボは次話へ続きます」

全員「今回文字数少な過ぎるって!!」

第2回・2012年1月号(パート2) ぽぽ介初の合作企画! コラボwith

念のためにここで原作紹介をさせて頂きます。

agcm会話特別S枠

- ・ボーカロイド(初音ミク)
- ・けいおん!(中野梓)
- ・魔法少女リリカルなのはシリーズ(フェイト・T・ハラオウン)
- ・たまごっち!(ともみ)

agcm会話少女漫画枠(たかミクさんリクエスト)

- ・妖界ナビ・ルナ(竜堂ルナ)
- ・しゅごキャラ!(日奈森あむ)
- ・極上!めっちゃモテ委員長(北神未海)
- ・パタリロ!(パタリロ・ド・マリネール8世)

agcm会話風見リクエスト枠

- ・ぷよぷよシリーズ(アルル・ナジャ)
- ・まじよ子シリーズ(まじよ子)
- ・とつとつハム太郎(ハム太郎、春名ヒロコ)
- ・しゅごキャラ!(ラン、ミキ、スウ、ダイヤ)

第2回・2012年1月号（パート3）ぽぽ介初の合作企画！コラボwith

という訳で、ここからは作品単位で自己紹介となります。

めっちゃめっちゃ長くてある意味グダグダかもしれませんが…。

第2回・2012年1月号(パート3) ぽぼ介初の合作企画! コラボwith

ぽぼ介「はい!という訳でここからは基本的には1人ずつ自己紹介をして頂きます。先ず少女漫画を原作としないキャラクター8名と作者のたかミクさんからの紹介になります」

・特別S? たかくん39さん

楓「という訳で、先ずはagcm会話の作者・たかくん39さん! またお会いしましたね」

たかくん39「お久しぶりですっ」

さくら「たかミクさんは同会話(月刊)を2009年7月31日から執筆されているんですね」

たかくん39「その通り!今月末で遂に2年半といったところでですねえ」

ぽぼ介「2年半も続けていらっしやるって凄いですね。僕はまだ2ヶ月目…」

ともみ「そのメモリアルな月に人生の分岐点に立つ高校3年生だけだね」

たかくん39「それを言うなよ…ストレスだorz」

ぼぼ介「まあまあ…殆どの方が経験される試練なんで。でも高校受験は僕も歯痒い思い出があった様な…先ず現代文と社会が半端無く不味い成績だったので国公立は八十からあきらめて英数理で某私立大学に責めに行きましたね」

たかくん39「という事は理系…？」

ぼぼ介「はい。そうですね…では一体何名の方がこのト書きモノを読んでいらっしやるか分からないんですけど、読者のみなさんにお問い合わせがあります！にじファンのagcm会話(ncode=1576k)でもたかミクさんのFC2ブログ(なるうのuseriD=61957のトップページから進めます)でもどちらの感想フォームでも構いませんので、よろしければ受験生のたかミクさんに激励コメントの方、お願いします！」

たかくん39「おおっ！ありがとうございますっ」

ぼぼ介「いえ、先程ズバツとやってしまった感じがあるのでそれ位の事はしておかないとダメかなと」

楓「それから、もう前回のコラボで説明済みなんですけど、ここでもagcmの意味についてお尋ねしていいですか？」

たかくん39「もちろんokだよ。aがアン『あっ・じいさんが・ころんだ！・まただ…』」

たかミクさんが説明に入る前に、まじよ子が訳のわからないアクリスティックで割り込んだ…

たかくん39「まじよ子？何だそれはorz」

まじよ子「頭文字作文。若しかして違った？」

アルル「大いに間違えてるよ…」

チーン……………

まじよ子がアルル以外のメンバーからも白い目で見られた事は言うまでも無かった…。

ぼほ介「という訳で改めてどうぞ」

たかくん39「はい。aがアニメ、gがゲーム、cが漫画（comic）、mが音楽（music）です」

ルナ「でもたかミクはあんまり漫画は読まないの」

たかくん39「やっぱりアニメに偏るかな」

ぼほ介「でもそれが普通だと思いますよ。漫画は金がかかりますからね。僕は例外ですけど」

フェイト「例外って…どんな風に？」

さくら「古本屋さんでかなりの量の漫画を買ってるのよ。それも殆どが少女漫画なの」

梓「かなりって…どれくらい家にあるんですか？」



あむ「気持ちは分かるけど……全然違うよ（暗顔&細目）」

ぼぼ介「『アーケードゲーム』だよ。確かに僕だって当初はその台詞が舌の先まで出掛かったけど。どんなアーケードゲームですか？」

たかくん39「色々ありますけど、代表すると……『アンサーアンサー』（以下anan）ですね。一言でいえばクイズゲームです」

ぼぼ介「ananですか……漫画プレゼンターのみんなは知ってた？」

楓・桜・チャチャ「初耳です」 全員タイミングがダブった

ぼぼ介「たかミクさんごめんなさいね……作者が知らないのに語るという無謀な事は出来ないの、あまり深く入れないですけど……でもananに限らずゲームが大得意だそうで、大会にも出場されているんですよ？流石です」

たかくん39「ありがとですっ

……でも受験生なんでなかなかプレイしに行けないのが現状ですがorz」

ぼぼ介「晴れて受験が終わりましたら、ゲーム活動の方も頑張ってくださいね」

たかくん39「はいっ」

ぼぼ介「という訳でたかミクさんでした！」

・特別S？ 初音ミク

ぼほ介「たかミクさんは作者さんなんで当然レギュラー（特別S）なんです、ここからの4名も現レギュラー（特別S）となります。その1人目は、ボーカロイドの歌姫・初音ミク！」

ミク「みくみく〜っ！」

結木（…結構ぶりっ子だったりするのか？初音ミクって…違ったらスミマセンだけ…）

ミク「またまた来ちゃったよ〜初音ミクっ！」

ミルモ「sうぐぐぐぐ…」 楓に口をふさがれている

ミク「？」

楓（耳打ち）「ちょっとミルモ！流石にそれは不味いわよ！」

ミルモ「しゅいぶしゅいぶばば）どういうことだよ（！？）」

楓（耳打ち）「旦那さんが怒るかもしれないよ？」

ミルモ「ぷはあっ…何だソレ？」

ワガママ王子の頭上にはいくつか疑問符が飛んでいた。それが残ったまま、楓はたかミクさんに尋ねた。

楓「たかミクさん、確か…『初音ミクは俺の嫁』でしたっけ？」

たかくん39「モチ!!!」

ミルモ（なぐるほど。それはマズい）

疑問符、消滅。が、今度はミルモの嫁が…

リルム「あの…初音ミクさんと初音さんはどのように違うのでしょうか？」

殆どの人「だあああああ……」

全員に近い程の人数が脱力し、コケた。定点カメラがあったら映像が上下運動するほどのコケである。が、殿下がこの後…

パタリロ「何だそれは？名が似ているから同じなのではないk」

たかくん39「全然違えええええ！」 バット装備

カキーーーーーン!!!

喧嘩を買ったたかミクさんによってパタリロは勢いよく場外ホムランとなった!…え?ここは部屋の中だからそれは不味いつて? 実はその心配は無く、窓際にいた春名ヒロコが咄嗟に風見の部屋の窓を開けてそこから殿下が外に飛ばされたので何の損壊も無かったそうな（実際は不可能に近い）。

ハム太郎「ロコちゃん…スゴイのだ。急にそんな…」

ロコちゃん「いやいや…ホームランバットと来たらもう大体何が起

こるかってわかったから……」

スウ「しかもズッコケからの咄嗟の行動！流石正統派ですう！」

ラン「んでもってバッテリーのコントロールの上手さ！」

ミキ「下手したら修理しなきゃいけなかったからね」

ぼぼ介「……まあ話を戻すけど、初音さんは女性シンガーソングライターですね。もともとの活動名（本名でもある）が奥村初音ってわけです」

ミク「で、今ここにいるのは初音ミク！楽譜と歌詞さえ入力してくれたらどんな歌でもあたしが歌っちゃおうよっ」

ぼぼ介「正直あんまりボーカロイドに詳しくないんでこれもそんなに語れないですけど、……」

ミク「そんなあゝ……ガクっ or z」

未海「ミクさーん……まだ続きがありますわよ？」

ぼぼ介「（ミクの曲のうち）聞いた曲にメルト・みくみくにしてあげる（してやんよ）があって、取材目的で『みくみく』を聞いたらみくみくになりました」

ミク「やったあ ミクミクミクミクミクミクミクミクミクミクミク  
ミク（ry）」

チャチャ「……何これ」 啞然

楓「……ミクの儀式かな？」

さくら「凄いよね、ポーカロイドだから嘸まずに言えちゃうんでしょ？」

楓「否、そうかもただと言つべき事はそれじゃないでしょ……？」

・特別S? ともみ

ぽぼ介「続いてはアニメ『たまごっち!』に登場する人間の女の子・ともみちゃん！」

ともみ「はい！」

ぽぼ介「ごめんなさい……正直たまごっちも余り見てませんでした」

ともみ「そんなー……」

楓（風見くんってホントに正直が過ぎる……知ったかぶりして間違っ  
た紹介するのも問題だけど）

ぽぼ介「でも結局いくつか見ることに成功しましたが……可愛いです  
ね」

ともみ「あ、ありがとうございます」

そんなともみと風見のやり取りに対して、チャチャは……



スパーーーーーン！

カキーーーーーン！

チャチャ「いやあああああああああ！！！」

そしてチャチャも家の外へ飛ばされた……。

ともみの手品が見たい方はぜひ原作のアニメ「たまごっち！」に足をお運びください。いつやるかどうかは僕には分かりませんが（汗）。

ミク「2人（殿下とチャチャ）をこの場に戻す手品は出来ないかな？」

ともみ「ごめん、それ手品じゃなくて魔術だと思う……」

ぼぼ介「余談ですが個人的なたまごっちの思い入れは、あべさより先生の『みんなでたまごっち』という漫画作品です。確か1999年前後に学年別学習雑誌で連載されていたと思います」

ハム太郎「1次ブームのときなのだ。たしかそのときはボクの生みの親・河井リツ子先生もちやおでたまごっちを描いていたころなのだ（「りっち」名義で連載）」

楓「で、2次が結構長く続いているよね。ヤスコーン（杉木ヤスコ）先生が学年別学習雑誌で今（2012年1月現在）も連載中なのよね。確か2005年からだったかな……。で、ちやお2012年3月号からはあさだみほ先生が新たにたまごっち漫画を担当されて……本当に凄いです、たまごっち（汗）」

・特別S? フェイト・T・ハラオウン

ぼぼ介「で、これとこの次が完全に未知の領域なんですよね…一番楽だったのはともみちゃんだったかな」

ダイヤ「何となく分かる気がするね、ソレ…」

楓「という訳で4人目は魔法少女リリカルなのはシリーズよりフェイト・T・ハラオウンさんです」

フェイト「初めまして」

ぼぼ介「もうこの地点で崩壊してる気がするの僕だけでしょうか…?」

さくら「ほえ!? 最初の一言で崩壊はまだ早いよ?」

ぼぼ介「初めましてフェイトさん。僕はよく逃走中同盟の方々の逃走中小説を読みに行きますが、度々拝見してます」

フェイト「あ、それはどうも」

ぼぼ介「コミカライズ版である程度勉強してみたけど、フェイトちゃんは理数系でしたっけ」

(違っていたらすみません)

フェイト「ええ。魔法の構築とか制御とかには必要な知識だったり

するの」

ぼぼ介「理数系か。僕と同じだね。いやー…理数系女子はうちの学科には殆どいないな」

理数系クラスの実情をネタにした風見だが、次にとんでもない(?)発言を…

ぼぼ介「確かフェイトちゃんはごくたまに名前を間違えられるっけ？」

フェイト「そうだねー…『フェイト・T・ハラウオン』がよくあるパターンかな」

ぼぼ介「ごめんなさい。僕はもっと酷いです」

フェイト「ひどいって…?」

模範回答からも大きく外れる風見のミススペルとは?

ぼぼ介「『フェイト・T・ハラフウミ』」

フェイト「……………」

このあと風見が皆から白い目で見られたのは言うまでも無い…。

それから数分後、

コンコンッ

ルナ「あれ？誰か窓を叩いた様な…」

竜堂ルナの耳に飛び込んだのはガラス窓を叩く音。思わず彼女はガラス窓に視線を配った。

そのガラス窓の向こうにいた、というか浮いてたのはやっぱり…

チャチャ「ジョーク言った位でふっ飛ばさなくてもいいのにー!!」

チャチャだった…。結局あの後幕で風見の家まで戻って来たのだ。

ミク「帰って来るの早杉ww」

・特別S? 中野梓

さくら「続いてはアニメ化もされました漫画『けいおん!』より、中野梓さん!」

梓「はっ……初めましてっ!」

ぽぽ介「あずにゃんもフェイトちゃんと同様にたまーに逃走中に出てるよね」

梓「はい!逃走中に出られるなんて嬉しいです」

ぽぽ介「それと、うちの従弟がけいおん好きだよ」

梓「ホッ…ホントですか!?!」

ぽぼ介「うん。今回けいおんを予習しようとして、単行本1巻を買ったんだけど、」

ラン「けどー？」

ぽぼ介「あずにゃんって2巻から出るらしいね。1巻にはいなかったわ」

たかくん39「ドンマイっすww」

ぽぼ介「それから、たまに先輩達に猫耳のカチューシャとかを要求されるのかな？」

梓「……はい」

アルル「じゃあ早速猫耳をつけちゃおうよ！可愛いし」

梓「えええ！？アルルちゃん、そんな！！」

しかし、誰も猫耳のカチューシャを持ってはいなかった。

梓「ふう……」 安堵のため息をつく

が、すっかり緊張のほぐれた顔をしていた梓にチャチャが不意打ちの一言を放つ！

チャチャ「じゃああたしが出してあげる！」

梓「えゝえゝっ！！？」

チャチャ「出でよ！ネコミミ！！」

ポン！！

チャチャがそう唱えた直後に、白いケムリが一瞬にしてぶわっと広がった。そのケムリは一瞬にして消え去り、何かが現れた。

チャチャ「…あれ？コレって…」

しかし、期待していたものとは違い、現れたのは……

フェイト「あなた達、チヨコとミミ！？」

チヨコ「え？この部屋って…」

ミミ「うっそー！？また来ちゃった！！」

そう。前回のゲストとして当小説に登場していた桜井ちよこ（以下チヨコ）と猫田ミミである。

（「チヨコミミ」。作：園田小波）

チャチャ「『ねこみみ』じゃなくって『ねこたみみ』だった…」

まじよ子「アンタって結構へたっぴな魔法使いだって噂で聞くけど、ホントだったんだ」

チャチャ「まじよ子ちゃんには言われたくない！！」

まじよ子「何を〜〜！！」

下手な魔女同士の争い勃発…。

梓「ホツ…良かったです…」

ぽぼ介「もう、この2人はなあ…あ、思い出した。チヨコとミミ、会話レギュラー昇進おめでとう」

チヨコ「あ！ありがとう！知ってたの？」

ぽぼ介「うん。たかミクさんのブログを見た時点で知ったよ」

チヨコとミミは、「たかくんagcm会話」の第10期レギュラーに選抜されました。作者たかミクさんの都合もあり実質的には今年（2012年）3月のみの出演となる見込みだそうです。

ぽぼ介「原作者みたいな言い方になってしまっんですけど、この2人をとりあえず1か月間よろしくお願いします」

たかくん39「はいっ」

ぽぼ介「……………まだ終わらないのか……………ガクッ」

風見が指差した先には、未だに取っ組み合いになっていた2人の魔女がいた…。

チャチャ「あたしの方が上手いのに！」

まじょ子「ウソおっしやい！」

20分後

・風見リクエスト？ アルル・ナジャ

楓「あはは…という訳で飛び入り参加のチョコとミミもよろしくお願ひします。ここからはうちの作者のリクエストキャラです。agcm会話の歴代レギュラーから3人と1匹の登場です。1人目はぶよぶよシリーズから、アルル・ナジャちゃん！」

アルル「えへっ！ボク、アルル！」

ぼぼ介「正直に言いますとぶよぶよもプレイ歴が無いんです」

アルル「ええええええ！？」

ぼぼ介「ぶよぶよと基本システムが同じ落ちゲーはやった事はあるんですけど、たまたまでも4連鎖までしか出せない唯のアホンダラです」

ダイヤ「じゃあどうしてリクエストなんてしたの？」

ぼぼ介「それは…若かりし頃にたちはな真未先生のぶよぶよまんがを読んでぶよぶよキャラに親しみを持ったのと、最近よくぶよぶよキャラの逃走中を見かけると、この2つが理由です」

ミク「原作を知らないなんて外道だねっ」

ぼぼ介「何とでも言ってくれ…」

ミミ「女っばく見えるよね〜アルルくんって」

(注:「ミミ」は猫田ミミ、「未海」は北神未海とします)

チヨコ「いや、女だよ…ボクとは言うものの女だから」

アルル「ボクは列記とした(?)女だよ」

ミキ「ボクも!」

・風見リクエスト? まじよ子

さくら「続いてはまじよ子シリーズから、まじよ子ちゃんです!」

まじよ子「よろしく!」

たかくん39「意外にもまじよ子がクレジットされたけどwwぽぼ介さんは何処でまじよ子を知って?」

ぽぼ介「いや、これ原作の藤真知子さんには失礼かもしれませんが…ブック フの『漫画コーナー』でまじよ子を発見してビビッと来ました」

ともみ「ま…漫画コーナーって事はつまり…」

ぽぼ介「はい。漫画版『いたずらまじよ子の大冒険』(作画:みずなともみ先生)を発見したのがきっかけです」

未海「この人派生モノしか無いんですの…?」

ぼぼ介「いやいやいや…機会があつたら是非原作も読もうと思いますよ!」

そう。今ここにいるまじよ子は原作とは違い、彼女が被っている黒いとんがり帽子には4周ほどピンク色のリボンが巻きつけられている。髪の毛も茶色のショートで、両側に広がった感じ。袖も肩のあたりまでしかなく、魔法も先端が三日月の形をしたステッキを使つて発動する(今更ですが原作とは異なりますのでご了承下さい)。

あむ「だから勝気だつたり魔法が下手だつたりしたんだね…」

まじよ子「いやいや!これからあたしが魔法が下手じゃないつて証明してみせるから」

フェイト「何か嫌な予感がする…」

まじよ子はステッキを右手に構えて、自信ありげに魔法を使おうとする!ステッキを前方に突き出して、

まじよ子「マジヨマジヨ マジヨコ~~~~!!ネコミミ、出てこい!」

梓「えええええ!?!」

ポン!!

まじよ子が高らかに呪文を唱え、彼女がステッキを構えた先に発生した白いケムリと共に現れたのは、なんと猫耳付きのカチューシ

ヤ！お望み通りの品物である。

ぼぼ介「すごい。漫画版のまじょ子にしてはやるね」

梓「いやです〜〜！」 逃げている

しかし、逃げる梓に対してマラカスを振りながら踊る妖精が約一名。

ミルモ「ミル！ミル！ミルモでポン！」

ミルモの魔法により梓は全身金縛りに遭った。指先すら麻痺している。当然口も動かない。涙すら流せない。しかも逃げている最中に固まった為にまるで陸上競技の静止画でも見ている様な感じで中途半端に止まり、バランスを崩して受け身も取れぬまま人形のごとく転倒した。

梓（そんなあああああ！）

ミク「じゃあミクミクがつけまーす！えいっ」

拒む彼女に成す術も無く、梓の頭に猫耳が付けられた。が、その数秒後……

梓「ごろにゃ〜ん」

梓以外「え？」

皆目と耳を疑った。梓は招き猫みたいに右手を顔のところまで上げていて、最早猫状態だ。しかも照れくさは皆無である。

チャチャ「結局粗悪品ね…あの猫耳」

まじよ子「イヤ！これはある意味結果オーライ（？）でしょ」

チャチャ「あたしだっていいタイミングであの2人を呼べただよ  
！？」 あの2人（チョコとミミ）を指差して言う

まじよ子「えー？実際はアクシデントでしょー？」

チャチャ「何よー！まじよ子ちゃんだってアクシデントじゃないの  
ー！」

まじよ子「何さ〜〜！」

やっぱり始まった……

ミルモ「下手なのはもう一人いるんだけどな」 リルムに指差す

リルム「本当は認めたくないですけど、事実ですからね」

何故かあの2人とは違い、潔く認めたリルム。

梓「にやにやんがにや〜ん〜」

10分後

・風見リクエスト?? ハム太郎&春名ヒロコ

ぽぼ介「さて、これで僕のリクエスト梓は最後になります。思えば長い紹介だった…」

ラン「まだラン達もいるよー！」

ぽぼ介「ジョークだよ」

梓「あれ？あたしはさっきまで何を…」 猫耳を付けていた間の記憶はない

さくら「という訳で作者リクエストの最後は、ハム太郎さんと春名ヒロコちゃん！」

ハム太郎「ボク、ハムたろう！」

ロコちゃん「あたし、ロコ！」

たかくん39「おおww次回予告だww」

ぽぼ介「そうですね。ハム太郎は実際途中までは見てましたよ」

ハム太郎「と、とちゅう……」

ぽぼ介「いやいや、高校受験期に入って見られなくなったんだ…ゴメン」

ロコちゃん「でも今も確か大学3年生の潮時じゃ…」

ぽぼ介「それは言わないで……。まあ兎に角序盤30話辺りからす

い〜ちゅぱらだいの中盤辺りまで見てました」

ハム太郎「ってことは、30ぐらいから225ぐらい……えええ！  
？けっこう長いおつきあいなのだ！」

結木「でもすい〜ちゅぱらだいですって、実質舞台がガラリと変わった  
ただろ？あそこから先は視聴者を選んだ感じが否めないんだけど…」

スウ「何しろ現実世界からいきなりお菓子の国へ舞台を移したんで  
すよね〜スウも行ってみたいです〜」

ミキ（下手したら太るよ…『しゅごキャラちゃん！』でもたまごに  
入れなくなっただじゃん）

ぼぼ介「でも個人的には前半約200話と同じくらい好きでした」

アルル「この人ファンタジーには弱いんだ…」

ぼぼ介「はい。第1話の注意書きにも記したとおりです。今ファン  
タジーの事しか触れてませんが、前半約200話でも結構色  
々やってましたね。山に登ったり、パンダくんがハムスター用の遊  
園地を造ったり、時代劇風の世界で事件が起きたり（夢）、天使の  
世界で天使修行をしたり（これも夢）、原始時代の世界でにじハム  
くんが対立する2民族の仲を取り持ったり（やっぱり夢）、…」

ロコちゃん「夢オチばかり…」

ハム太郎「でもボクはまだまだテレビにうつってるのだ（2012  
年1月現在）。『のりのり のりスタ』と、『とっそこハム太郎で

ちゅ』があるのだ」

ぽぼ介「ごめんなさい。のりスタはまだ見れるんですけど、『でちゅ』に関してはウチでは放送圏外です」

ハム太郎「ガーン……」

<休憩タイム>

ぽぼ介「余談だけど、ハム太郎は確か一時期ちゅおにも連載されていたっけ」

ロコちゃん「うん」

ぽぼ介「基本は学年別学習雑誌だったかな……ってあれ？ミニ？何そのビデオカメラは」

ミニ「あ。それはね……ゴニョゴニョ……」

ぽぼ介「あ、それはいいね。次の話にでも使おうかな」

第2回・2012年1月号(パート3) ぽぽ介初の合作企画! コラボwith

まだまだ続く、少女漫画パラダイス!

ラストパートとなるパート4では、いよいよ本題・少女漫画組の登場です。

これだけ文が長いと改ページ作業にも時間がかかります(汗)。

そしてトークものにも拘らず今回は地の文やや多め(爆)。とはいえ少ない方ですが。

あと、訂正事項などありましたらお手数ですが報告お願いします。

そしてラストパートが未完なのでー……。。

日付が変わる前に頑張ってアップしようと思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3840y/>

---

月刊！ぼぼ介的少女漫画パラダイス

2012年1月10日00時49分発行